

# 大阪医科大学学報

第80号 平成21年5月



カワヤナギ

## ◆目

平成21年度入学宣誓式	2
最終講義	4
名誉教授称号授与	5
新任教授紹介	6
附属看護専門学校長就任挨拶	7
格付・規程関係	8
平成21年度事業計画及び予算の概要	9
寄付金報告	18
入学試験・国家試験状況	19
平成21年度科学研究費補助金交付内定	20
研究助成金等・受賞等について	23
学位記授与式	28
ジェットタオル設置	30
FDワークショップ報告	31

## ◆次

教育センター	32
中山国際医学医療交流センター	33
学内行事	38
行事日程	43
病院看護部・感染対策室関係	44
キャリア形成支援センター	45
医療安全推進部関係	46
AED設置・附属病院関係事項	48
市民公開講座	49
平成21年度LDセンター活動予定	50
主要会議報告	51
保健管理室からのお知らせ	54
歴史資料館関係	56
特別市民講演会	57

## 平成21年度入学宣誓式

### 医学部医学科

日 時： 平成21年4月3日(金) 14:00～

場 所： 新講義実習棟1階 P101室

入学生： 113名



### ■平成21年度 医学部医学科入学式 告辞

学長 植木 實

桜の花も見事に満開になりました。

皆さん、本日はご入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。ご出席下さいましたご両親並びにご家族の皆様もお慶びのことと拝察申し上げます。

本日はご来賓として関西医科大学の山下学長をはじめ、仁泉会 植原理事長、PA会 丸川会長、そして本学 國澤理事長、法人役員並びに元学長、教授各位のご出席を頂いております。

皆さんは大学入試に向かって小学校の高学年から中学・高等学校と長年の間、ずいぶん努力されてこられたことと存じますが、この間を支えて下さいましたご両親、ご家族への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。多くのことに感謝の気持ちを持つことが、人間性のある医師への第一歩だと思います。

そして、皆さんの頭の中に刻み込んでほしいこととして、大阪医科大学の理念があります。それは「グローバル社会で活躍できる人間性豊かな良医の養成」であります。これから6年間、良医とはどんな医師を指すのかを、皆さんは学びながら考えて頂きたいと思います。

先般、私は新聞で、ある大学の病院長が投稿されていた医学部に入学された学生に問いかける文章に魅かれました。皆さんは今まで学んだことがないはずの医学の道に自分で選んで入られましたが、彼の問いかけは「人前で堂々と医学の道を選んだ理由が言えるか…」と。さらに「皆さんには奉仕と犠牲の精神はあるか」ということ、加えて「死に至る患者の心に君達は添えるか」と述べておられました。医師の仕事はTVドラマのように格好よいものではなく、重症患者のための連日の泊り込みや、急患による休日返上などは日常のことです。

そして、特に皆さんに強く求められることは「医師の知識不足は許されない」ということでもあります。知識不足や技術不足の医師は患者を死に至らしめます。即ち、医師は一生勉強を続けることを覚悟しなくてはならず、「医師になることは真剣に考えると身震いするくらい怖いことだ」と述べられております。

また逆に、医師の喜びは2つあるとしています。1つは「自分の医療によって健康を回復した患者の喜びが、即ち、医師の喜びである」、そして2つめは「基礎・臨床研究によって世のため人のために役立つ医学的発見の喜びである」としています。このいずれも、医学の道を志す皆さんが自分自身に問いかけ、そして実践していかなければならない内容で、次第に判ってきますが、ぜひ憶えておいて頂きたいと思います。

# 平成21年度入学宣誓式

さて、皆さんは入学後は楽しい青春時代があると思って受験を頑張ってきたと思います。もちろん、皆さんには大阪医科大学の学生としてスポーツを楽しみ、また文化クラブなどで素養を高めるなど、一度しかない青春時代を謳歌して頂きたいと思います。医師はまず体力と心身の健康が必要です。私は学生時代は水泳部に所属し、西日本医科学学生総合体育大会に出場しまして、スポーツの楽しさや苦しさなどの良い思い出をたくさん持っています。そして、この時期に同級生やクラブの友人とコミュニケーション作りをしていくことは、医師になるためには大切なことです。

しかし、皆さんの本業は医師になるための学業にあります。特待生として入学した学生が、一年経つと最下位になったという例もあり、決して授業や実習を休んだり、単位を落とすことのないようにして頂きたいと思います。

最後に、諸君には大阪医科大学の学生としての誇りと自信を持ち、良医になる目標を失わず、悔いのない青春と大学生活を送って下さいますことを希望して祝詞と致します。おめでとうございます。

\*\*\*\*\*

## 大学院医学研究科

日 時： 平成21年4月2日(木) 14:00～  
場 所： 別館3階 大学院多目的講義室  
入学生： 39名

### ■平成21年度 大学院医学研究科入学式 告辞

学長 植木 實

この度は大学院へのご入学おめでとうございます。今年は39名の方が入学されましたが、皆さんは優れた研究者あるいは一流の臨床力を持つ指導医師になるために研究を志す方々と思います。

私は学長就任以来、大学の組織の改革や整備に取り組み、皆さんのご支援もあって、かなり進展したと思います。大学院に関しましても大学院将来構想委員会を置き、谷川教授を委員長として専用施設、新しい系やコース、カリキュラムの導入、専任教員の採用などを検討し、4月からはこれらが実現することになりました。さらに特色のある、姿の見える大学院になるよう、南大学院委員長をはじめ全委員が頑張っております。

本学は、一層の発展を目指して今後も全学的に改革を進めていきますが、皆さんと関係のある事項をいくつかご紹介したいと思います。1つには、皆さんの努力が必要ですが、学位が早く取れるシステムに変わることと専門医も同時期に取得できる大学院改革を行ったことです。2つには文部科学省の大型事業である「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に本学のプランが採択され、若手医師に求められるキャリア形成コースを設けたこと、そして3つ目には、女性医師の子育てや介護期間等に適用される短時間正職員制度を設け、キャリア形成を続けながら、安心して働けるシステムを作ったことで、ぜひ知っておいてほしいと思います。

皆さんがこれから大学院生として研究をしていく上で重要なことは“独創性”であります。自動車メーカー『ホンダ』の創業者である本田宗一郎氏は、研究者に絶えず「人と変わったことをやれ」と言い続けたといわれています。独創性は研究論文の要であり、時に発想を変え、あるいは成績、結果を違う方向から眺めて考える心構えがあれば、ずいぶん良い研究になると思います。ぜひ、この独創性と、違った視点から成績を見ることを忘れないで下さい。

皆さんの成長が大学の発展を支えます。また、皆さんは本学のエリートとして本学の牽引者になって頂く方々であります。その意識を持って研究に励まれますよう期待しております。

皆さんのこれからのご活躍をお祈りして、ご入学のごあいさつと致します。おめでとうございます。



本年3月をもって定年を迎えられました皮膚科学・清金公裕教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。



日 時：平成21年2月25日（水）14：00～15：00

場 所：臨床第1講堂

演 題：『思い出の皮膚疾患』

昭和43年4月に大学院生として皮膚科学教室に入り41年間、多くの皮膚疾患を経験して参りました。皮膚病変のみの場合と他の疾患に伴う皮膚病変を合わせますと、どの位の数の疾患があるのか分かりませんが、恐らく私が経験した疾患はその内の10%は無いらしく推測しています。経験した疾患が少ないような気も致しますが、それでもこれらの疾患が私をそれなりの皮膚科医に育ててくれたと思っています。その中で「思い出の皮膚疾患」となりますと80例位は直ぐ思い出されましたし、少し思いを巡らせますと100以上の疾患がありました。それを全て今日おみせ出来ませんので、その内、27例を供覧して私の最終講義とさせていただきます。

症例1：スポトロリコーシス。皮膚の深在性真菌症の代表的疾患で、病理組織像で星芒体をみます。

症例2：犬小孢子菌感染症。家庭で飼っているイヌ、ネコの毛や鱗屑からの感染により生じる白癬です。

症例3：ポーエン病を合併した疣贅状表皮発育異常症。ヒト乳頭腫ウイルスによる感染症で、常染色体性劣性遺伝と考えられており、近年、第17q25に存在するEVER1/TMC6の変異がみられると報告されています。

症例4：疥癬。昭和51年に外来で初めて私が担当した典型的な疥癬の症例です。

症例5：マダニ刺咬症。ライム病の発症の原因となります。

症例6：ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群(SSSS)。中毒性表皮壊死症の1型ですが、元来、皮膚科ではリッター型新生児剥脱性皮膚炎と呼ばれていました。

症例7：紅斑性天疱瘡（シネア・アッシャー症候群）。典型的な症例です。

症例8：線状IgA水疱性皮膚症。表皮基底膜部に線状にIgAの沈着がみられます。

症例9：好酸球性膿疱性毛包炎（大藤病）。HIV関連皮膚疾患とも言われています。

症例10：毛髪皮内潜行症。臨床像は寄生虫によるクリーピング・ディーズに類似致します。

症例11：ウェルナー症候群。この疾患を知らなかった時に経験した典型的な症例です。

症例12：特異な臨床像を呈した硬化性萎縮性苔癬。この疾患は有棘細胞癌の発症母地となり、また、ライム病の皮膚症状の一つとも考えられています。

症例13：家族性良性慢性天疱瘡（ヘイリー・ヘイリー病）。細胞内カルシウムポンプであるATP2C1遺伝子異常を生じる常染色体性優性遺伝を示します。

症例14：毛包性ムチン沈着症。毛包や脂腺にムチンの沈着がみられ、時にリンパ腫と関連して生じることがあります。

症例15：腸性肢端皮膚炎（亜鉛欠乏症候群）。後天性の場合、経中心静脈栄養を行っている人や以前用いられていたラクトレスミルクを飲んでいていた乳児に発症します。

症例16：好酸球性蜂巣炎（ウェルス症候群）。癢痒性浸潤性浮腫性紅斑を呈し、病理組織像で火焰状像が出現することが特徴です

- 症例17：澄明細胞性棘細胞腫。腫瘍細胞の細胞質が大きく澄明でグリコーゲンを豊富に含む表皮細胞の増殖より構成されています。
- 症例18：ポーエン癌。ポーエン病からポーエン癌に移行したことが証明された症例です。
- 症例19：頭部に生じた結節潰瘍型の有棘細胞癌。この患者さんをその年の暮れに入院させたことから当科も日常の当直を行うようになった思い出深い症例です。
- 症例20：毛包漏斗腫。臨床像は脂漏性角化症に類似し、腫瘍細胞がグリコーゲンを有するやや明調な細胞より構成された毛包漏斗部由来の珍しい腫瘍です。
- 症例21：外毛根鞘性表皮内癌。我々が命名した悪性の毛包腫瘍です
- 症例22：増殖性外毛根鞘性嚢腫癌。我々が命名した毛包癌です。
- 症例23：毛包汗管腫。安原教授（現名誉教授）らが命名した、毛包腺腫とアポクリン腺腫より構成された良性毛包腫瘍です。
- 症例24：乳頭状エクリン腺腫。毛包汗管腫と類似点の多いエクリン汗腺由来の良性腫瘍です
- 症例25：原発性皮膚腺様嚢胞癌。病理組織像で篩状構造をみるエクリン汗腺由来の悪性腫瘍です。
- 症例26：肥満細胞腫（色素性蕁麻疹）。成人で多くの肥満細胞が増殖する珍しい肥満細胞腫です。
- 症例27：皮膚筋線維腫。ケロイド状の外観を呈する線維芽細胞と筋線維芽細胞から成る良性間葉系腫瘍。皮膚科領域では本邦2例目の症例です。

ご清聴有難うございました。本学のさらなる発展ならびに皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。



### 名誉教授称号授与



平成21年4月1日（水）  
午後1時30分から、学長室において3月末日をもって退職されました清金公裕先生に名誉教授の称号が授与されました。



## 新任教授紹介

### 新任教授(皮膚科学)紹介

この度、大阪医科大学感覚器機能形態医学講座皮膚科学の教授を拝命いたしました。本学皮膚科学教室の歴史は古く、1929年に佐谷有吉大阪大学教授が嘱託医として勤務されたのが始まりです。1931年に三内健治先生が初代教授に就任され、その後、栗原善夫教授、安原稔教授、清金公裕教授へと伝統が引き継がれ、平成21年4月1日から私が第5代教授として教室を担当させていただくことになりました。また第3代の栗原教授時代には同じ皮膚科医の松本信一先生(京都大学名誉教授)が長きにわたり学長をされ、本学の教育・研究の発展にご尽力されました。松本先生の言われた「学を離れて医はない」という言葉は私の座右の銘でもあります。

私は昭和61年に本学を卒業し京都大学医学部皮膚科学教室に入局しました。その後の京都大学大学院時代に私のこれまでのライフワークの原点であります色素性乾皮症(XP)の患者、家族との出会いがありました。XPは紫外線性DNA損傷の修復欠損で発症する遺伝性の難病です。米国国立衛生研究所への留学、兵庫県立尼崎病院皮膚科勤務を経て、平成10年から浜松医科大学に転任し、当時本邦で唯一であったXPとその類縁疾患の診断センターを立ち上げ、主としてXP遺伝医療の発展に尽力してきました。またDNA修復という観点から皮膚老化の基礎研究も行って参りました。平成17年8月、縁あって浜松医科大学から本学皮膚科に助教授として着任いたしました。本学への転任に際しましては、清金公裕前教授、本学皮膚科同門会を始め多くの先生のご理解、ご支援をいただきまして感謝の念に堪えません。

私の専門は光皮膚科学、光生物学、分子遺伝学であります。今後も本学において「光」、「遺伝」をキーワードにした様々な臨床研究を展開していきたいと思っております。また同時に、学生や研修医の医学へのモチベーションが高まるような皮膚科学教育、地域住民の皆様信頼していただけるような最先端の技術と知識を駆使した皮膚科診療の充実にも全力で取り組ませていただきます。まだまだ若輩者で微力非才の身ではありますが、これまでの本学皮膚科学教室の伝統を守りつつ、本学皮膚科、さらには本学が益々発展するように精励いたす覚悟です。本学の皆様にはこれから色々とお世話になることが多いかと存じますが、ご指導・ご鞭撻を賜われれば幸いです。



感覚器機能形態医学講座  
皮膚科学

森脇 真一 教授

昭和36年11月1日生  
昭和61年3月 大阪医科大学卒業  
平成4年5月 京都大学大学院医学研究科博士課程修了  
平成4年7月 米国国立衛生研究所 客員研究員  
平成6年7月 兵庫県立尼崎病院皮膚科 医長  
平成10年6月 浜松医科大学医学部附属病院皮膚科 助手  
平成12年6月 浜松医科大学医学部附属病院皮膚科 講師  
平成12年12月 浜松医科大学光量子医学研究センター 助教授  
平成17年8月 大阪医科大学応用内科系講座皮膚科学助教授  
平成21年4月 大阪医科大学感覚器機能形態医学講座皮膚科学教授

## 附属看護専門学校長就任のご挨拶



附属看護専門学校長 神谷 美佐子

この度、佐野浩一教授の後任として平成21年4月1日付けで大阪医科大学附属看護専門学校長を拝命いたしました。本校を卒業して、母校で専任教員としての約10年間を含め、この3月まで附属病院で育てていただきました私にとり、学校長として看護基礎教育に携わることができますことは、身に余る幸せであります。

次世代へ繋ぐ看護基礎教育のあり方について再考を必要とされているこの時期にあって、これまでに体得できたことを少しでも役立てられることがあればと考え、大変微力ではありますがお引き受けした次第です。幸い、西山裕子副学校長は、附属病院看護部 看護部長代理の要職に任命されましたが、当面は看護専門学校も兼務され、補佐していただけることを大変こころ強く思っています。教員・職員ともどもよろしくお願いいたします。

さて、本校は長い伝統のもと今年で80周年を迎えます。この間、社会の要請に応じた過程の看護師養成を行ってきました。日本の社会は少子高齢社会を中心に急速な変化の中、病院から在宅へ均一した保健・医療・福祉が求められています。看護職への期待は健康の観点から安全・安心な療養生活を支援できる専門家です。看護職に求められる能力は多様化・高度化しており、その能力の基盤を看護基礎教育の中でいかに形成していくかが今まさに問われています。

本校では、平成21年度カリキュラム改正に先行し、教育内容を精選してきたところであります。教育理念には「本校は、看護師として必要な専門的知識と実践力を習得させ、よき社会人としての人格形成に努めるとともに、保健・医療・福祉の分野はいうまでもなく、広く社会に貢献できる看護師を育成する」と謳っています。看護基礎教育の限られた期間の中で高度先進医療の中で活躍できる、また看護を目指した自分に誇りがもてるよう、本校のモットーでもあります「生き方として看護を選ぶ」に繋がる教育に力を注ぎたいと思っています。看護は人と人のかかわりの中で熟成されて多くのことを学んでいくことが求められます。一人の人間として、また人間性豊かな看護師としての成長を支援していきたいと思っています。

看護基礎教育の変革の時期、看護師養成教育体制を更に発展させるためにも、看護専門学校教職員一同努力を惜しむことなく、一致協力してその任務にかかわりますことは勿論のことですが、法人、大阪医科大学、附属病院をはじめ内外関係各位におかれましては暖かいご指導とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 略 歴

1948年（昭和23年）	6月	生まれ
1968年（昭和43年）	3月	湯浅学園高等学校卒業
1972年（昭和47年）	3月	大阪医科大学附属看護婦学校卒業
1973年（昭和48年）	9月	大阪医科大学附属看護学校専任教員
1985年（昭和60年）	4月	大阪医科大学附属病院 看護師長
1990年（平成2年）	4月	大阪医科大学附属病院 看護副部長
2000年（平成12年）	4月	大阪医科大学附属病院 看護部長



### 学校法人大阪医科大学格付『A+』を維持

学校法人大阪医科大学は、平成21年1月22日株式会社格付投資情報センター（R&I）による格付の審査を受けました。2月23日にその審査結果が公表されましたのでお知らせします。

受審結果は、平成20年度も前年度同様『A+』の格付（方向性は安定的）を維持継続することができました。『A+』の格付が得られた主な理由は、附属病院は特定機能病院として質の高い医療と地域医療の重要な役割を担い、今後も一定の競争力の維持が可能であると評価されたためです。具体的には、平成19年度以降附属病院の経営改善に取り組み、その結果平成20年度も引き続き入院、外来とも単価が上昇するなど収支が改善傾向にあることが評価の一つの要因となっております。5年連続医学部医学科の志願者が増えたこと、大学病院連携型高度医療人養成推進事業等大型の外部資金の獲得ができたこともその他の評価要因となっております。

これらの評価を受けることが出来たのも、教職員・同窓・学生保護者等法人関係者の努力の賜と感謝しております。

なお、今後この格付を維持するためには平成20年度以降帰属収支差額のマイナスを解消することが条件となっております。さらなる財政再建の必要性がありますのでご協力のほどお願いします。

学校法人 大阪医科大学  
理事長 國澤隆雄

## 規程関係

### 規程制定

#### 次の規程が制定されました

■学校法人大阪医科大学 栗本洋子基金規程	平成21年4月1日制定
■学校法人大阪医科大学 栗本洋子基金規程細則	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反ポリシー	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反マネジメント規程	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反に関する指針	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反に関する指針Q&A	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反に関する指針施行細則	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学 利益相反に関する指針施行細則Q&A	平成21年4月1日制定
■大阪医科大学附属病院 診療録等管理細則	平成21年4月1日制定

### 規程改正

#### 次の規程が改正されました

■大阪医科大学附属病院 病院運営会議規程	平成21年3月1日改正
■大阪医科大学 科学研究費補助金取扱要領	平成21年4月1日改正
■大阪医科大学 市民公開講座運営委員会規程	平成21年4月1日改正
■大阪医科大学附属病院 臨床研修専任指導医規程	平成21年4月1日改正
■学校法人大阪医科大学 寄附行為	平成22年4月1日改正

※上記各規程等については、Online規程集（学内限定）にてご確認下さい。

なお、都合上Online規程集の更新が遅れる場合があります。



## 平成21年度事業計画及び予算の概要

### I. 事業計画立案の背景

#### [1] 国際的背景

世界的な不況は、想定を超える規模で進んでおり、先行きの見通しは明らかでない。少子高齢化を伴う人口減少による労働力不足によって顕在化すると予想していた経済活動の集約への過程は、この不況によって以前の想定とは異なる様相を呈しており、様々な変化に対応できる柔軟な体制と対応を求められている。

#### [2] 国内的背景

世界的な不況の中で、本邦にも重大な影響が出ており、今後の対応はより柔軟でなければならない。我が国の18歳人口は平成20年度に最低数まで減少するとされており、高等教育機関の受験者数は近年で最も低い水準になると予測される。その中で医学部医学科の入学生が定員割れする危惧は少ないが、医学部医学科の定員増や近年の学生気質の変化が将来的にどのような形で現れるかを予測しながら、教育体制の改善は継続的に行わなければならない。医療の分野に関しては、現在の不況の影響や医療制度構造改革の方向性を見極め、様々な機能の中核病院としての在り方を柔軟に検討しながら事業を進める必要がある。また、地域の特定健診や特定保健指導の強化などへの配慮を求められている。

#### [3] 法人の現状

本法人の目的は「教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成すること」である。看護専門学校校舎、病院7号館、学生講義実習棟などの整備の後、様々な制度構造改革が進み、加えて今回の世界的な不況による状況の変化を考慮して、各種整備計画の一部見直しが求められる。今回の世界的な不況の中で、都市再生緊急整備計画の期限である十数年後までの病院新棟を始めとする建築については、過去に行った既存病棟の改修を応用して求められる病床への転換など柔軟に対応する必要がある。過去に行なった年度事業計画の前倒しや突発的な事業執行が、現場での柔軟な予算執行によって行われ、事業執行の迅速性が確保された一方で、結果として固定的な費用の増加により財政状況は悪化した。しかしながら、事務系のIT統合と予算執行体制の再検討により、予算統制の効果が現われはじめている。厳しい予算統制の中でも、教学面では大学院改革など、研究面では研究施設の改善など、診療面では病棟改修や画像フィルムレスシステムの導入など、施設面では環境保全事業などを達成できたため、これらの効率的な運用が求められる。また、経費率が高いという問題はあるが、附属病院の多大な努力によって、医療収入が増加しており、今後、予算統制によってより効率的な収入増加へ向かう柔軟な対応が求められている。

学校法人の主たる事業である教育研究に関しては、様々な教学方の努力によって受験者数は増加しており、本学は大学としての高い評価を獲得している。

高槻市内にキャンパスをもつ(学)関西大学ならびに(学)大阪薬科大学と共に、共同設置学部を平成22年度に開設する検討が行われたが、大学看護系学科の設置には至らなかった。しかしながら、看護基礎教育の重要性に関する共通の認識から、看護系学部を単独で設置する方向で進んでいる。また、関西大学と大阪薬科大学が先行して共同学部を設置し、本学を含めた3大学の連携を強

# 平成21年度 事業計画及び予算の概要

---

化することによって実質的な3大学共同の新分野の形成を実現する方向で進んでいる。

## II. 事業計画立案の方針

以上の背景を踏まえて、以下の事業計画立案の方針を立てた。

本法人は、本学が平成16年に「都市再生緊急整備地域」の指定を受けるまでの建物規制が厳しい中で、大学や病院の様々な建設と整備を行い、創立時から6号館建設までの建築を第1次整備計画とすると、それに次ぐ第2次整備計画を本館図書館棟の建築をもって終えた。更に第3次整備計画は、看護学科設立を念頭に置いた看護専門学校校舎、それに病院7号館、また学生講義実習棟の新築を、都市再生緊急整備計画の政令の一環として始めた。この第3次整備計画は、法人が設置する各機関・部署の強い要望に基づき実施したが、結果的には3年間という短期間に多額の投資を行った。つまり平成16年度から現在に至るまでの間に、都市再生事業計画案に沿って行なった本学・本院の建物新築ならびに病院機能評価受審を皮切りに始めた附属病院改修工事に費やした設備金額は総額100億円以上に達し、本学にとっても過去に例のない巨額の投資となった。その投資効果は高槻市や北摂地域の住民ならびに本学本院のステークホルダーの利益に寄与し、相応の成果を出しつつ評価も得ている。しかし資金支出後は本学の財政が圧迫され、種々の経営指標が低下したことも事実で、その結果本法人の学校法人会計基準による財務内容は不安定になっている。逆に今後数年間は、今迄の投資による収益効果をさらに上げることが必要な時期であると考えている。ここ数年は現有設備を最大限に有効利用して将来に備えて設備拡充資金の積み立てを図ることが最重要であると判断し、中期的な財政基盤の強化に資する事業を中心とし、経常的支出についてはさらに緊縮財政の方針を採る。

一方短期的な視点から、保留可能な事業への投資を極力押え、リースなども駆使しながら、借入等の負債額の増加を抑制し、採算性の確保できる設備については、導入後の検証を確実にこなうことを前提に実施する。

長期的視点からは、本部キャンパスの整備に必要な周辺土地の確保が不可欠であり、また現在進めている都市再生緊急整備や中心市街地活性化には纏まった土地が必要であるため、地域整備や活性化などの地域貢献を視野に入れ、旧看護専門学校・看護師寮用地と府営住宅用地の交換を実施する。将来的に都市再生緊急整備計画が終了し、本部キャンパスへの集約整備が完了すれば周辺土地は不要で、これらの土地を運用或いは売却して得られる収益を本部キャンパス整備に掛かった借入金返済に充当可能。

## III. 平成21年度事業計画

### 1. 新規事業

#### (1) 新学部看護学科〔4年制〕開設準備

背景としては、文部科学省中央教育審議会は4年制看護基礎教育の必要性を示唆しており、加えて「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」の成立によって、国は保健師の質を確保すると共に、特定保健指導の実施等、保健師を中心とした病気の予防体制の確立向かっている。これは看護師資格を持つ質の高い保健師養成が喫緊の課題であることを示しており、看護師への保健師資格の付与は社会の要請である。更に大学附属病院はより高度な看護基礎教育を受けた看護師を必要としている。他方、病床の再編、在院日数の短縮、産科・小児科医療の偏在化が進む中、在宅看護の重要性が増し、在宅看護から高度医療まで一貫し

た看護基礎教育が求められている。

本法人では看護師養成の必要性から年間数億円の消費収支赤字を出しながら、看護基礎教育を専門学校（3年課程）で行ってきた。財政状況の厳しい中で、しかも少子化による受験生の減少と入学生の質の変化に対応しながらこの体制を維持することは困難になった。そこで、財政的な裏づけを確保しつつ、充実した看護基礎教育を行うために、看護学部看護学科を設置する。今回計画している看護学部看護学科は、既設の医学部医学科とそれに附属する特定機能病院、および既に連携している地域施設を臨地実習の場として利用する。これによって、広義の医学と専攻分野の科学を教授し、科学的基礎に立った実践的実習を行い、均質化と個別高度化に対応できる医療従事者を養成する。このようにして育成された医療従事者は「国際的視野に立って、いかなる地域にも密着して人類の福祉と文化の発展に貢献できる」。

### (2) 健康科学クリニック事業

本事業の背景としては、本邦の特定検診の推進と特定保健指導の強化がある。高槻市国民健康保険の特定検診実施率と特定保健指導実施率について、当初の目標を達成することは難しい模様である。目標達成に向けて今後検診事業をさらに強化する必要に迫られ、行政は関係機関に特定検診の推進と特定保健指導の強化への協力を要請している。医科系大学においては、このような要請に応えるとともに、疾病予防に関する教育研究の場を形成する必要がある。

そこで、本法人は大阪医科大学附属病院の理念である「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆さまに提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成する」に基いて社会の要望に応えるとともに、疾病予防に関する教育研究の場とすることを目的として、一定の採算性を図りながら、疾病の予防と早期発見を中心とする検診・人間ドックと高度医療へ繋がる特殊外来を中心とした診療所を設置する。特殊外来としては女性全人医療外来、東洋医学外来など特殊な疾患など診療機能を付加する予定である。

設置場所は、ステークホルダーの利便性を重視し、JR高槻駅中の6階建てビル（高槻市芥川町1-1-1、JR西日本不動産開発株式会社）の3～6階部分（計400坪）を賃借する。スタッフとして、クリニック長1名を含む常勤医師4名、非常勤医師、常勤非常勤の放射線技師と看護師、事務長と営業外交員の配置を予定し、夜間の利用を可能にする予定である。

現在、医師会との調整を進める一方で、行政との協議の結果正式名称を「大阪医科大学健康科学クリニック」とすることが決定し、現在各種健康保険組合との契約締結を進めており、初年度は人間ドック25件（／日）、特定検診20件（／日）、乳がん・子宮がん・肺がんの検診を各5件（／日）、CT検査10件（／日）、また女性専門外来および他の専門外来を合わせて40件（／日）程度見込んでいる。

収支については、マーケット調査の結果、現在の営業活動から1年目より黒字経営とすることが可能であると考えられ、市民からの期待も大きい。

### (3) 近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム

**[文部科学省補助事業：大学病院連携型高度医療人養成推進事業]**

平成20年度文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に、本学が主幹大学として申請した「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」が採択された。このプログラムは、近畿圏の4私立医科大学（本学、関西医科大学、兵庫医科大学、近畿大学医学部）を中心として、近隣の国公立大学医学部（京都大学、大阪大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学）や関連病院が緊密に連携・協力し、それぞれの得意分野を相互補完することにより、近畿圏の私立医科大

## 平成21年度 事業計画及び予算の概要

---

学に多くの優秀な後期研修生を集め、質の高い専門医や臨床研究者を養成するというものである。この補助は、平成20年度以降5年間に亘って実施される。

### 2. システム構築事業

#### (1) ネットワークシステム更改 [費用支払は平成22年度より]

平成14年7月に導入した現行のGIGAビットワークネットワークシステムは、二重化による危機回避システムのお陰で顕在化はしていないものの、法定耐用年数は平成19年1月で既に経過し、確実に故障率は増加。NWシステムの構築作業は1年以上の長期を要するものであり、故障が顕在化してからでは全く手遅れである。

大学業務においても、ネットワークシステムへの依存性が指数関数的に高まってきており、僅か数分のNW障害であっても、研究・教育に混乱を来たすことになりうる。また総合研究棟回線については、平成7年のATM導入時より更新されておらず、低速度回線であり、かつ老朽化している。

特に病院側では、オーダリングシステムへの診療依存度合いが指数関数的に高まってきており、僅か数分のNW障害であっても、診療現場で大混乱を来たすことになり、医療過誤の原因にもなりうる。またWebですら、救急医療部や周産期センターの空床報告のために利用されている状況であり、今回はイントラネットのみならず、セキュリティ強化および回線の安定性の増加のため、インターネット関連のファイア・ウォールやサーバーなども更改する必要がある。従って平成21年4月から更改作業を開始する必要がある。

#### (2) 第3期法人ITシステムの統合 [費用支払の一部は平成22年度に回る]

法人ITシステム統合（第1期）にて、平成19年4月より稼動している財務・人事・調達系システムは順調に稼動し、一定の成果（複数部署でのコード統一／2重入力の削減／部署別支出の把握）が出ている。第2期において、資産管理、財務系、人事系、文書管理などの業務系システムを増強する予定であったが、予算縮小のため部分的な構築に終わっている。

今回の要望（第2期残務及び簡易分析）により、会計機能強化および決裁支援ならびに簡易分析を含めたシステムを構築する。これにより法人本部組織のPDCAが強化され、業務の効率化やコミュニケーションの活発化、情報の透明化を実現。

なお、今回の事業は、広範囲に業務運用の見直しなどが発生するため、13ヶ月程度（平成21年6月～平成22年3月まで）になる。そのため、平成22年3月までに完了できるシステムについては、部分的に研修・引渡しを受け稼動させる。残務については、平成22年7月からの稼動を予定する。

今回のシステム導入により、決裁・揭示などのコミュニケーション機能が充実され、収益面でもプラスになると考えられる。また簡易分析システムおよびキャッシュレスが促進され、事務処理が効率化される。

### 3. 病院大型改修工事並びに高額機器購入

#### (1) 3T-MRI装置の導入

現在、2台のMRで平均42件の検査を中央放射線部で施行している。今後MR1台の増設で21件の増加が見込まれ、現在のMRIの外来待ち日数50日は、約70日で解消できる。待ち日数が減ると外注検査が呼び戻されるので、約1～2週間程度の待ち日数で平衡状態が保たれば、臨床上は大きな齟齬は来たさない。更に待ち日数減少により、本院での検査が増え、大幅な増収が期待できる。診断面では、3Tは空間分解能力が高く、神経内科、脳外科、整形外科、産婦人科など

## 平成21年度 事業計画及び予算の概要

の臨床診断、すなわち患者の治療方法の選択に良い影響が出る。

また現在、関西私立4大学で3TのMRを持たないのが本学と近畿大学であり、近畿大学は購入が決定されている。大学病院として様々な領域の研究面でも3TのMRは必要で、本学が持たないことは国公立大学、関西私立医大の中で研究面でも遅れをとり、将来の大学院教育に大きな懸念が予想される。

以上のように、本学が3TのMRを導入することは、患者サービスと診断精度の臨床面、病院経営における収支面、大学院教育及び研究面で大きなメリットがある。

### (2) MRI導入に伴う改修工事並びにカルテラック更新及び診療情報管理室移転

平成21年度にMRIの導入が決定し、現在の医療情報管理室が移転した跡地の一部に機器を設置する計画として検討した場合、機器を設置する上での最低限必要な建築（天井・壁・床）改修工事と電気・設備工事が必要となる。加えて6号館地下では、大雨が降ると一部雨漏りが発生している。ついては、雨漏りの対策等も検討し、MRI導入に伴う改修工事を行ないたい。

併せて、6号館地下に設置されている電動棚は、設置されてから30年近くが経過し、棚本体が歪み、電動モーターの摩擦と各部分の劣化が激しく、電動棚の保守管理が困難になっている。また耐用年数からみても寿命にきている。更に、電動棚がスムーズに稼動しないため、保存物品（カルテ、フィルム等）の取り出し作業に係わる危険リスクは大幅に増大している。ついては、日常業務の安全性を高め、スムーズにカルテ等の保管管理業務を行なうためにも、電動棚の更新を早急に行なう必要がある。その上、現在のカルテラックでは、MRI設置場所に保管しているカルテ等が整理できないので、現状のカルテ室内で最大に有効利用するためには、2層式手動型カルテラックを設置し、カルテ管理業務の効率化を図るものである。

### (3) 小児科外来診療区域改修工事

小児科外来については、建築後約45年が経過し、その間に大きな補修工事もなされておらず、各種設備機器等にも影響が出ている。また患者様の療養環境にも決して良いとは言えない状況になってきている。ついては平成21年度においても「診療環境を整備する方針」の継続事業として、未だ整備がなされていない小児科外来診療区域の改修工事を行なう。

### (4) 53病棟・55病棟ハイケア室改修工事

53病棟内ハイケアユニット設置については、53病棟診療科および病院の関係各部署から予てより強い要望があり、病院事務部で取り纏めた結果、病棟内での診療をより高度に、より安全に効率良く（ICUの稼動効率等）を行なうため、ハイケアユニットを設置する方向で纏まった。また55病棟においても53病棟同様にストロークケアユニットの設置が要望され、改修工事を行なうもの。

### (5) 病棟看護師控室改修工事

病棟看護師控室は、看護基準（看護配置）の見直し等（7対1）により、職員数も以前より多くなり、控室がかなり手狭な状況になっている。また2交代制の導入により、控室等に仮眠ベッドを設置する必要が出てきた。控室等の改修工事が行なわれている病棟は、控室内また多目的室・面談室などに仮眠ベッドを設置して対応しているが、改修が行われている病棟では支障が出てきている。病院企画室において、看護師控室の改修を検討して貰いたいとの要望があり、施設課を中心に関係各部署と協議し、改修工事を計画した。具体的には、配膳室・給湯室などを改修する。

### (6) 保育室天井改修工事

室内各乳児・幼児保育室天井の仕上げがモルタル塗りとなっており、地震等の振動、揺れで落

## 平成21年度 事業計画及び予算の概要

---

下する恐れがある。現在のモルタル仕上げを一旦落とし、新たに不燃ボードで天井を作り直し、落下事故を防ぐための改修工事を行なう。また照明及び空調機器も老朽化し、更新の時期に来ているため、天井改修に合わせて取替える。

### (7) 栄養部哺乳機改修設置

NICU隣接の調乳室内で、新生児用のミルクを調乳する機器について、現在の機器については、かなり老朽化しており、突然、故障が発生する可能性が高く、またボルト洗浄は、ブラシ等の老朽化により異物混入の危険性が高くなるため更新。

## 4 その他

### (1) 旧看護専門学校・愛泉寮解体工事

本学所有の「旧看護専門学校・愛泉寮用地（高槻市八丁畷）」と、大阪府所有の「府営高槻住宅用地（高槻市北園町）」を交換するため、旧看護専門学校校舎及び愛泉寮など7棟の建物を解体撤去する。本学にとっての交換の意味は、本部西キャンパス（約2,600㎡）の北側に加えて約4,000㎡の土地を保有することができ、合計6,600㎡の土地が本部キャンパス西側に隣接して保有することになり、本学が将来的に行なう病院建物新築時に多大な有効性を発揮する。

## IV. 平成21年度予算の概要

### 1. 予算編成の基本方針

#### (1) 基本的な考え方

① 帰属収支差額（黒字）の目標を2億円以上とすること

② 繰越支払資金を最低限40億円確保すること

・「経営状況を黒字とし、必要な資金を確保すること」を基本的な考えとした。単年度での帰属収支を収入超過とさせ、次年度繰越支払い資金を減少させないためには、「経費の削減」が最重要課題として位置付け、財政基盤の磐石化を図る。

#### (2) 収入面

- ・ 学生生徒等納付金は、医学部定員増の効果を見込む。
- ・ 医療収入は、平成20年度同様 実現可能な収入を見込む。
- ・ 補助金は、特別補助では本学の特色を活かせるきめ細やかな支援メニュー群に積極的な申請を行い、経常費補助金（一般補助）では昨年度並みの実績を目指す。
- ・ 寄付金は、積極的な外部資金の獲得を見込む。
- ・ 資産運用は、利回りの低下による減収を見込む。
- ・ 借入金は、施設関係及び設備関係の充実を目的に長期借入金を計画した。

#### (3) 支出面

- ・ 人件費は、費用抑制は短期に容易でないため業務委託費を含めた実質人件費の総額削減を目標とした。
- ・ 教育研究経費は、教育研究活動の維持・発展のためには不可欠なものであり収支の均衡を失しない限りに計上することを目標とした。
- ・ 医療材料費は、医療収入予算額の目標予算31.5%とし、フィルムレス化導入による材料費削減を目標とした。
- ・ 管理経費は法人運営の最小限の支出とし、可能な限り抑制することを目標とした。
- ・ 施設・設備関係費は、中長期計画の観点から投資と財務のバランスを考え、ジャストサイズの

計画を目標とした。

### 2. 平成21年度予算

#### (1) 資金収入

『学生生徒等納付金収入』については、平成21年度医学部定員を10名増とし110名を予算化した。また、新特待生制度の適用者5名を予算化した。

『補助金収入』については、経常費補助金（一般補助）の配分点をもとに予算計上した。特別補助は本学の特色を活かせるきめ細やかな支援メニュー群に積極的な補助金申請とその獲得により減収を最小限に圧縮した予算を計上した。平成20年度採択分の文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」として「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」を補助金とし新たに平成21年度分を計上。

『医療収入』については、平成21年度は診療報酬改正の年度でない為、医療収入予算は、平成20年度同様実現可能な収入を予算化した。入院平均在院日数の短縮による収入単価アップ、外来機能強化、救急告示、新たな施設基準届出などを考慮した編成内容とした。手術室の効率的な運用、新入院患者数の獲得など地域医療連携の強化を行い、さらには7対1看護体制の堅持による増収を見込んでいる。健康科学クリニックの医業収入として9.5ヶ月分を予算計上した。

『寄付金収入』については、募金推進本部を中心とした積極的な外部資金の獲得を予算化した。創立80周年記念事業募金、教育環境整備募金、別館維持・机募金、フレンズ会、新たに新学部設置募金の募集、健康科学クリニック（未病科学・健康生成研究）寄付講座募金を計上した。

『借入金』は、健康科学クリニック設置の為の借入金を計上した。また、病院における施設および設備の拡充の為の新規借入金を予算計上した。

#### (2) 資金支出

『人件費支出』については、給与改訂を定期昇給のみとし給与改訂差額を前年度同額とした。諸手当の改訂はなく、分娩手当と研修医時間外手当を新規に予算計上した。新規予算として、新学部特務教員人件費、雇用形態変更による兼務職員人件費、健康科学クリニックを計上し、予算要望のあったレジデントの待遇改善予算は次年度以降の検討事項とした。

他方人件費を減少させるための派遣等の役務費及び施設設備等の維持費は、前年度支払額を確認し平成20年度の執行状況を勘案した上で要望額に対し減額調整した額を予算化した。

『教育研究経費支出』については、医療材料費予算を医療収入の31.5%（目標予算）とし、フィルムレス化等による材料費抑制効果として31.0%を予算化した。また、健康科学クリニックの医療材料費は別途計上した。

医学部定員増に関連する新規予算として、条件付給付奨学金及び機器整備費を計上した。特待生制度として奨学助成金を別途新規予算として計上した。

女性医師及び看護師支援と近畿圏循環型医療人キャリア支援事業を予算計上した。『管理経費支出』については、旧看護専門学校校舎および愛泉寮7棟の建物解体撤去費を予算計上した。

新規予算として、健康科学クリニックの広告費及び施設賃借料、医学部受験生の獲得の広告費増額分、新学部開設に伴う学生募集の広告費等を新規予算計上した。

『施設関係支出・設備関係支出』については、新学部費用、小児科外来診療区域等改修、MR機器導入改修工事、ITシステム統合第3期、CAT試験システム、特定化学物質障害予防規則による解剖処置環境洗浄ユニットの予算を新たに計上。

## 平成21年度 事業計画及び予算の概要

### (3) 繰越支払資金

予算編成方針である最低限の支払資金『40億円』の確保はできなかった。経常的な諸経費の実績額をベースに編成しその削減と調整を行い、また、施設・設備投資は、財務の健全性とのバランスや施設設備整備の方向性を検討した。平成20年度は繰越支払資金の減少に多少歯止めをかけることができたが、これまで投下した施設や設備を維持・管理する費用が想定以上に増大しており、新規事業着手のために設備拡充引当資産の取り崩しと長期借入金を予算化したが、平成21年度予算編成においてその目標に達しなかった。

### (4) 帰属収入

法人運営に必要な消費支出の財源となる帰属収入は、医療収入を基幹収入として事業計画の決定を左右する大きな要因となっている。平成21年度の新規事業計画の関連の諸経費や経常的な費用である人件費や教育研究費・管理経費等は、最終的には予備費を除き収支が均衡した予算を編成せざるを得ない内容となった。

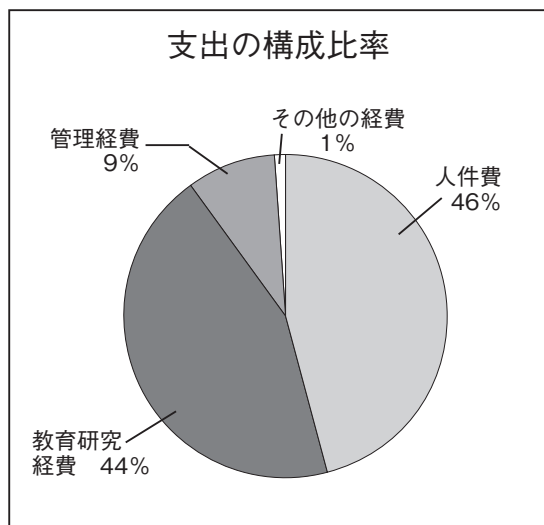
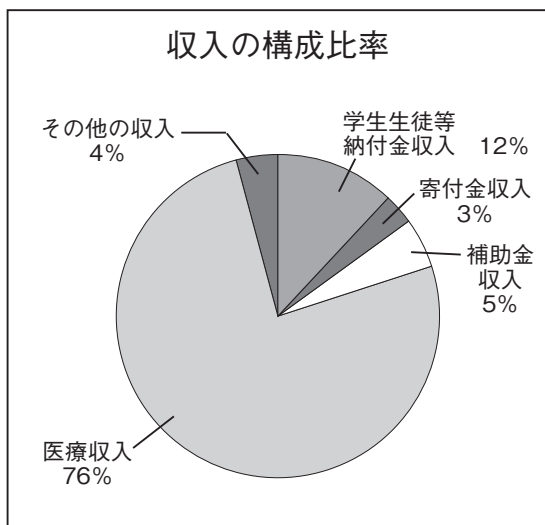
募金推進事業・補助金事業・受託事業など積極的な外部資金獲得予算を目標としたが、期待値以上の資金の獲得が求められることになった。

### (5) 消費支出

短期間に政策変更が難しい人件費の増加や教育研究経費の増加、施設設備の更新・拡充の支出の増加と減価償却額の増加などにより、当年度の帰属収入と消費支出が均衡した状況になった。各予算執行部署で経費の無駄を無くし、法人全体が一丸となって経費削減に取り組まなければ消費支出の抑制は不可能な状況である。

### (6) 帰属収支差額

帰属収支差額については、予算基本方針のプラス2億円の確保（予備費を除き黒字）は達成できなかった。自己資金に余裕がなく経営が窮迫し資金繰りにも困難をきたす可能性を含んだ予算編成内容である。今後、本学の財政基盤を安定させるため収入の増加及び支出削減により帰属収支差額プラスを必達し、累積消費支出超過額の改善が不可欠となる。





# 平成21年度 事業計画及び予算の概要

## 平成21年度 収支予算

### 消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成21年度 予算額	平成20年度 予算額	増減(△)	科目	平成21年度 予算額	平成20年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,543,615	3,445,155	98,460	人件費	13,437,769	13,231,107	206,662
手数料収入	193,647	131,562	62,085	教育研究経費	12,664,399	12,136,585	527,814
寄付金収入	828,928	847,000	△18,072	管理経費	2,503,972	2,271,800	232,172
補助金収入	1,369,003	1,767,642	△398,639	借入金等利息	135,563	70,274	65,289
資産運用収入	297,060	301,330	△4,270	資産処分差額	12,100	14,324	△2,224
資産売却差額	10,000	0	10,000	徴収不能額	25,680	23,300	2,380
事業収入	203,820	319,121	△115,301	予備費	100,000	300,000	△200,000
医療収入	21,973,801	20,801,869	1,171,932				
雑収入	367,798	339,078	28,720	消費支出の部合計	28,879,483	28,047,390	832,093
帰属収入合計	28,787,672	27,952,757	834,915				
基本金組入額合計	△1,833,600	△1,564,800	△268,800				
消費収入の部合計	26,954,072	26,387,957	566,115	当年度消費支出超過額	△1,925,411	△1,659,433	△265,978

### 資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科目	平成21年度 予算額	平成20年度 予算額	増減(△)	科目	平成21年度 予算額	平成20年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,543,615	3,445,155	98,460	人件費支出	13,500,279	12,958,547	541,732
手数料収入	193,647	131,562	62,085	教育研究経費支出	11,110,199	10,663,965	446,234
寄付金収入	807,503	828,000	△20,497	管理経費支出	2,334,132	2,108,620	225,512
補助金収入	1,369,003	1,767,642	△398,639	借入金等利息支出	135,563	70,274	65,289
資産運用収入	297,060	301,330	△4,270	借入金等返済支出	482,647	2,434,938	△1,952,291
資産売却収入	10,000	0	10,000	施設関係支出	1,189,019	398,197	790,822
事業収入	203,820	319,121	△115,301	設備関係支出	986,807	752,915	233,892
医療収入	21,973,801	20,801,869	1,171,932	資産運用支出	355,500	55,500	300,000
雑収入	367,798	339,078	28,720	その他の支出	3,697,750	3,737,222	△39,472
借入金等収入	1,500,000	1,646,500	△146,500	予備費	100,000	300,000	△200,000
前受金収入	1,749,900	649,460	1,100,440				
その他の収入	2,102,389	4,454,100	△2,351,711				
資金収入調整勘定	△5,419,240	△4,230,222	△1,189,018	資金支出調整勘定	△2,948,020	△2,944,000	△4,020
前年度繰越支払資金	6,022,805	3,975,562	2,047,243	次年度繰越支払資金	3,778,225	3,892,979	△114,754
収入の部合計	34,722,101	34,429,157	292,944	支出の部合計	34,722,101	34,429,157	292,944

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

# 寄付金報告

---

## ■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年1月7日から平成21年4月3日までの間の寄付金入金件数は、12件、金額は4,362,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成21年4月3日までの寄付金入金件数は302件、金額は115,302,000円です。

(順不同・敬称略)

須賀工業株式会社大阪支社 医療法人酒井クリニック 森村 友貴 神谷 銅彦 佐藤 雅男  
藤本 かつ子 酒井 知昭 西尾 元 第2看護学科24回生 梅垣 正典  
匿名2件

## ■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成20年10月4日から平成21年3月31日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は3,000,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成21年3月31日までの寄付金入金件数は26件、金額は60,500,000円です。

(順不同・敬称略)

河村 宏

## ■ 大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

---

### <入会者>

平成21年1月7日から平成21年4月3日までの間の入会者数は、5名です。

ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成21年4月3日までの寄付金入金件数は310件、金額は7,715,000円です。

(順不同・敬称略)

澤村 律子 藤岡 重和 松田 久美 土手 友太郎 寺井 義人

## ■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年1月7日から平成21年4月3日までの間の寄付金入金件数は、6件、金額は1,800,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成21年4月3日までの寄付金入金件数は22件、金額は7,800,000円です。

(順不同・敬称略)

宇野 博志 西山 裕子 城戸 滝枝 八幡 雅志 別所 康守 向井龍一郎

## ■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年1月7日から平成21年4月3日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は50,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成21年4月3日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は177,000円です。

(順不同・敬称略)

宇津 一彦

# 寄付金報告 入学試験・国家試験状況

## ■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

### <寄付金申込者>

平成21年1月4日から平成21年3月31日までの間の寄付金入金件数は、52件、金額は7,991,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

ウウキ産業株式会社 東洋紙業高速印刷株式会社 株式会社フロリスト花正 有限会社すばる印刷  
 株式会社関西ローマテリアル 株式会社京都科学 医療法人 旭会(社団) バクスター株式会社  
 荏原テクノサーブ株式会社 セントラルメディカル株式会社  
 門田 雅人 成松 正治 田原 一也 杉岡 弘敏 木田喜代江 國澤 隆雄 森本 英夫  
 牧野 文雄 本田 光俊 平井 博 山口 和伸 中村 晋作 島田 眞久 大谷 晴彦  
 中尾 忠民 岡野 准 石見 大八 宇野 博志 木野 昌也 桑島 勉 三嶋 隆英  
 森田 利江 森田 眞照 大槻 哲彦 梅田 勝弘 小嶋 融一 寺倉 勝彦 杉浦 孝正  
 高橋 宏明 佐野 浩一 奥村 悦之 米原 一成 佐々木進次郎  
 匿名9件

### ※寄付についてのお問合せ先

募金推進本部 TEL: 072-684-7243 FAX: 072-681-3723

E-mail: kikin@art.osaka-med.ac.jp

## 入学試験・国家試験状況

### ■平成21年度入学試験状況

(単位:人)

		志願者数	受験者数	入学者数
医学部医学科		2370	2125	113
大学院医学研究科		40	39	39
看護専門学校	推薦	13	13	10
	一般	224	203	53
	合計	237	216	63

### ■国家試験状況

		受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)	近畿平均(%)
第103回 医師国家試験	総数	113	102	90.3	91.0	
	新卒	97	93	95.9	94.8	
	既卒	16	9	56.3	54.3	
第98回看護師国家試験		80	79	98.8	89.9	90.1



### 訃報

本学名誉教授(皮膚科学)の安原 稔先生(85歳)が、去る平成21年4月2日(木)午後10時40分に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

# 平成21年度科学研究費補助金交付内定

## 平成21年度科学研究費補助金交付内定について

平成20年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した201件の新規研究計画に対し新規33件、継続38件の合計71件、総額90,500千円の内定がありました。(平成21年4月7日現在)

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
新学術領域研究(研究課題提案型)	4	0	0	0
特定領域研究	1	0	0	0
基盤研究(A)	1	0	0	0
基盤研究(B)	11	1	0	1
基盤研究(C)	112	21	19	40
挑戦的萌芽研究	20	0	2	2
若手研究(A)	1	0	0	0
若手研究(B)	51	11	17	28
合計	201	33	38	71

(注) 内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの。新学術領域研究の内定は7月中旬予定

### ■基盤研究(B) 一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
Tregバンク(CD28SA+幹細胞共培養)免疫寛容+MF1導入:移植腎永久生着	泌尿器科学 准教授	東 治人		2,900	2,600	2,900	2,600	2,200

### ■基盤研究(C) 一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
前立腺癌骨転移責任遺伝子の同定と組換えHSVによる癌ワクチン治療	泌尿器科学 教授	勝岡 洋治	*	700	0	0	0	0
ヘレニズム哲学におけるアカデメイアとピュロン派懐疑主義の位置づけとその現代的意義	哲学 専門教授	金山萬里子	*	700	0	0	0	0
『車椅子エコノミークラス症候群』の実態調査とその予防対策	内科学I 講師	木村 文治	*	600	0	0	0	0
生活習慣病としての慢性萎縮性胃炎および胃がん発生におけるアディポネクチンの意義	内科学II 教授	樋口 和秀	*	700	0	0	0	0
脳腫瘍の光線力学診断・治療法の最適化:高効率光源の開発と光感受性物質の分布解明	脳神経外科学 講師	梶本 宜永	*	1,000	0	0	0	0
卵巣癌におけるイレッサ、アバスタンの白金製剤耐性解除の検討	産婦人科学 講師	寺井 義人	*	1,000	0	0	0	0
メタボリックシンドロームにおける低酸素応答による酸化プロテオミクス	化学・生体分子学 講師(准)	境 晶子	*	1,500	900	0	0	0
発達障害児における不器用の神経基盤の解明:脳機能画像による疾患別の量的・質的検討	小児科学 助教(准)	柏木 充	*	1,300	600	0	0	0
網羅的遺伝子発現解析を用いた細菌の増殖再開メカニズムの解明	物理学 講師	牧 泰史	*	1,200	900	0	0	0
大腸菌100Sリボソムの構造と形成および解消機構の解明	物理学 准教授	吉田 秀司	*	1,100	1,100	0	0	0
メタボリックシンドローム合併症におけるキマーゼの病態生理学的役割	薬理学 准教授	高井 真司	*	1,100	1,100	0	0	0
間質性肺炎合併皮膚筋炎における疾患関連マーカー蛋白の定量プロテオミクスによる探索	内科学I 講師(准)	武内 徹	*	1,000	700	0	0	0
死因不詳の突然死症例におけるカルシウム依存性情報伝達物質遺伝子変異解析	法医学 教授	鈴木 廣一	*	1,400	600	0	0	0
エンテロウイルス感染マーカーとしてのMDA-5発現に関する研究	内科学講座 専門教授	浮村 聡	*	600	300	0	0	0
免疫抑制せず、オーダーメイドに移植拒絶反応を阻害する薬剤の開発	研究機構 専門教授	吉田 龍太郎	*	900	800	0	0	0

# 平成21年度科学研究費補助金交付内定

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
中性子捕捉療法及び光線力学的治療双方に利用可能な新規硼素化ポルフィリンの有用性	脳神経外科学 助教	川端 信司	*	900	700	0	0	0
5-A LAと自家蛍光の二重蛍光スペクトル解析による高精度脳腫瘍同定方法の開発	脳神経外科学 教授	黒岩 敏彦	*	1,000	1,000	0	0	0
ヒト軟骨系腫瘍におけるGABAシステムを用いた新たな鑑別診断法と治療法の確立	解剖学 講師(准)	神原 清人	*	1,000	1,000	0	0	0
花粉曝露室を用いたスギ花粉症誘発の病態解明	耳鼻咽喉科学 教授	竹中 洋	*	1,200	200	0	0	0
ピリドキサル・キノン酵素反応の多元的エネルギー解析	生化学 教授	林 秀行		1,300	1,100	1,300	0	0
酵素の立体構造に基づくスフィンゴ脂質代謝制御の分子機構に関する研究	生化学 講師	生城 浩子		1,200	1,200	1,200	0	0
ミトコンドリアから運搬されサイトゾル含硫小分子に使われる硫黄の運搬経路の解明	生化学 講師	中井 由実		1,700	1,200	800	0	0
性ホルモンによる卵管上皮線毛運動の調節機構の研究	生理学 准教授	中張 隆司		1,800	900	900	0	0
人工血管腔狭窄における機序の解明とキマーゼ阻害薬を中心とした治療法の探索	薬理学 講師	金 徳男		900	1,300	1,400	0	0
膵臓癌細胞由来膜/核内タンパク質-自己抗体結合体を標的とした膵臓癌特異抗原の検索	一般・消化器外科学 講師(准)	宮本 好晴		1,500	1,100	1,000	0	0
モデルマウスを用いた劇症1型糖尿病治療法の開発	内科学I 教授	花房 俊昭		1,700	900	900	0	0
劇症1型糖尿病患者血清の蛋白質間相互作用解析を用いた新規インスリン様分子の同定	内科学I 講師(准)	寺前 純吾		1,900	800	800	0	0
発症直後患者膵組織を用いた劇症1型糖尿病発症鍵分子の同定とその検証	内科学I 講師(准)	今川 彰久		1,300	1,100	1,200	0	0
母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析	小児科学 講師(准)	瀧谷 公隆		1,900	800	800	0	0
可視光の皮膚アンチエイジング効果に関する基礎的研究~DNA修復能に着目して	皮膚科学 教授	森脇 真一		1,600	1,000	900	0	0
好中球エラスターゼ阻害剤による致死放射線肺障害の防止に関する実験的研究	放射線医学 准教授	猪俣 泰典		1,300	700	500	0	0
STAB1・VEGF-CsiRNAとデコイベクターによる乳癌リンパ節転移阻止	解剖学 准教授	柴田 雅朗		1,800	800	900	0	0
外科医教育のためのe-learning用内視鏡外科教材Websurgの充実と発展	一般・消化器外科学 教授	谷川 允彦		2,600	500	500	0	0
ラットでの大動脈弁狭窄症術後肥大心筋の治療過程の研究:エプレノン投与は有用か?	胸部外科学 助教	小澤 英樹		1,200	800	700	0	0
局所的GABAシステム仮説に立脚した三叉神経痛発生メカニズムへのアプローチ	解剖学 講師(准)	早崎 華		1,300	1,000	1,200	0	0
顆粒膜細胞におけるミトコンドリアDNA欠損が卵発育障害をおこすメカニズムの検討	産婦人科学 講師	山下 能毅		1,100	900	1,000	0	0
子宮内膜癌に対するMPAの分子標的治療薬としての機能解析とその制御の検討	産婦人科学 講師	金村 昌徳		1,500	1,000	800	0	0
癌幹細胞をターゲットとした卵巣癌の白金製剤耐性機構の解明とその制御	産婦人科学 講師(准)	田辺 晃子		1,500	1,000	900	0	0
糖尿病網膜症の硝子体中コラーゲンに対する自己免疫反応と病態との関連	眼科学 教授	池田 恒彦		1,300	1,100	1,100	0	0
顔面外傷後の神経因性疼痛に対するSSRI治療効果メカニズムの解明	形成外科学 准教授	大場 創介		1,700	1,200	700	0	0

## ■挑戦的萌芽研究

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
質量顕微鏡によるアミロイド組織内沈着分子プロフィール異常と線維形成阻止法の開発	臨床検査医学 教授	田窪 孝行	*	900	0	0	0	0
3種抗体、および、レンチウイルスを用いた移植腎生着延長の試み	泌尿器科学 准教授	東 治人	*	1,700	0	0	0	0

# 平成21年度科学研究費補助金交付内定

## ■若手研究 (B)

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
移植拒絶反応：自然免疫系細胞で誘導される、移植抗原に対する新規受容体に関する研究	生理学 講師(准)	山路 純子	*	800	900	0	0	0
速度論および構造解析に基づく酵素触媒反応におけるプロトントンネリング機構の解明	生化学 助教	村川 武志	*	1,100	0	0	0	0
ミューラー細胞におけるコラーゲン産生と特発性黄斑円孔の病態に関する基礎研究	眼科学 助教	佐藤 孝樹	*	900	0	0	0	0
IFN- $\gamma$ KOマウスでの脱毛とIFN- $\gamma$ および同種移植による発毛の分子機構の解析	形成外科学 非常勤講師	岡田 雅	*	600	0	0	0	0
スケール構造に関わる言語表現の意味解釈メカニズムの解明	語学(英語) 講師	田中 英理	*	900	0	0	0	0
選択的プロテオミクスを用いた関節液中タンパク質解析による関節炎診断マーカーの探索	臨床検査医学 助教	松村 洋子	*	700	0	0	0	0
難治性急性前骨髄性白血病における新規レチノイド化合物の分化誘導機構の解明	小児科学 助教	井上 彰子	*	1,200	800	0	0	0
脳質周囲白質軟化症におけるオリゴデンドロサイトの細胞内酸化還元電位	周産期センター 助教(准)	平 清吾	*	700	0	0	0	0
脳室周囲白質軟化症発症へのプロゲステロンの関与とその抑制効果について	周産期センター 助教(准)	山岡 繁夫	*	500	0	0	0	0
骨髄間質幹細胞を用いた錐体神経細胞分化誘導と、脳梗塞に対する移植再生治療法の開発	脳神経外科学 非常勤講師	野々口 直助	*	1,400	0	0	0	0
脱シアロ化短半減期エリスロポエチン誘導体を用いた中枢神経再生治療法の開発	脳神経外科学 非常勤医師	三木 義仁	*	1,000	500	500	0	0
脳腫瘍治療前後の拡散強調像を用いた画像解析による早期治療効果判定の有用性	脳神経外科学 助教	山田 佳孝	*	1,300	0	0	0	0
診断治療薬同時包埋リボソームによる悪性脳腫瘍に対する治療効果改善に関する研究	脳神経外科学 助教	池田 直廉	*	1,100	0	0	0	0
自然免疫による移植片拒絶機構について	泌尿器科学 助教	能見 勇人	*	1,200	0	0	0	0
免疫グロブリンBCL6転座キメラ転写産物の定量測定による悪性リンパ腫の予後判定	耳鼻咽喉科学 講師(准)	李 昊哲	*	1,100	0	0	0	0
慢性副鼻腔炎における好酸球性炎症に対するプロスタグランジンD2の役割	耳鼻咽喉科学 非常勤医師	兵 佐和子	*	1,100	0	0	0	0
安全で高性能な毛髪付複合型培養皮膚の開発に関する実験的研究	形成外科学 非常勤講師	藤森 靖	*	500	0	0	0	0
肩インピンジメント：肩甲上腕リズムの生体力学的解析に基づく新しい治療法の開発	整形外科 助教	三幡 輝久		2,400	400	0	0	0
プロテオミクスを用いた大腸癌特異抗原結合自己抗体同定による新規診断マーカーの開発	一般・消化器外科学 助教	藤田 能久		2,400	800	0	0	0
消化器腫瘍におけるmicroRNAの発現異常と発癌への関与についての検討	一般・消化器外科学 非常勤医師	高城 武嗣		2,000	1,400	0	0	0
大動脈術後の脳障害関連遺伝子スクリーニングと指標となる脳障害血清タンパクの検索	胸部外科学 助教	三重野 繁敏		1,600	1,500	0	0	0
小胞体ストレス促進を利用した進行性腎臓治療	泌尿器科学 助教	稲元 輝生		1,300	1,100	700	0	0
プロモーターマイクロアレイを用いたトポテカンの新たな分子標的作用の解析	産婦人科学 助教	佐々木 浩		2,200	1,000	0	0	0
スギ花粉抗原特異的IgE産生に関与する細胞・分子の同定	耳鼻咽喉科学 助教(准)	金沢 敦子		1,400	1,200	0	0	0
蝸牛虚血再灌流時における内リンパカルシウムイオンの役割	耳鼻咽喉科学 助教	森 京子		900	800	0	0	0
マイクロRNAを指標とした術後慢性疼痛の解明	形成外科学 講師	中井 國博		1,500	1,800	0	0	0
頭頸部癌へのBNCTにトランスフェリン結合型硼素化合物運搬体を応用した基礎研究	口腔外科学 助教(准)	伊藤 雄一		1,200	1,500	0	0	0
口腔癌患者における硼素中性子捕捉療法(BNCT)の臨床効果に関する研究	口腔外科学 助教	木村 吉宏		1,000	1,100	0	0	0

## 研究助成金等について

### ■平成20年度研究助成 [財団法人前立腺研究財団]

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
小胞体ストレス応答を利用した進行性前立腺癌の治療	稲元 輝生 (泌尿器科学・助教)	50万円

### ■平成21年度生体超分子複合体構造解析チームライン

共同利用研究課題 (共同研究員) [大阪大学蛋白質研究所]

研究課題名	氏名(所属名・職名)
酵素反応の多次元自由エネルギー解析	村川 武志 (生化学・助教)

○研究協力課から処理 (申請・機関承認等) しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

## 受賞等について

### 第59回日本電気泳動学会第5回国際交流奨励賞受賞

臨床検査医学教室 准教授 中西 豊文 先生

2008年11月15日 神奈川県相模原市・麻布大学百周年記念ホールで開催されました第59回日本電気泳動学会にて、中西豊文准教授がこれまでの研究実績に対して、第5回国際交流奨励賞を受賞されました。



### 泌尿器科学教室 助教 稲元 輝生 先生

以下の3つの賞を受賞されました。

2008年10月 第46回日本癌治療学会総会において、優秀演題に選ばれました。

演題：『オルファン型の核内リセプターに対する新規活性化物質の同定とヒト膀胱癌治療への応用：in vitroでの機能解析とin vivoでの効果』

2008年11月 第60回日本泌尿器科学会西日本総会ヤングウロロジストリサーチコンテストにおいて奨励賞に選ばれました。

演題：“Friend or Foe? : Establishment of a novel activator of the orphan nuclear receptor Nurr1 in bladder cancer treatment.”

2009年2月 第18回泌尿器科分子・細胞研究会において、研究奨励賞ポスター部門の最優秀賞に選ばれました。

演題：『天然のリガンドを有しない核内転写因子に対する初の活性化コンパウンドの確立と尿路上皮癌増殖抑制への応用』

## 受賞等について

### 受賞等について

第203回 日本泌尿器科学会関西地方会

ベスト・プレゼンテーション賞

泌尿器科学教室 上原 博史 先生

2008年5月に行われた第203回 日本泌尿器科学会関西地方会でベスト・プレゼンテーション賞を受賞、第205回 日本泌尿器科学会関西地方会で表彰され、特別講演が行われました。

演題：『肉眼的血尿により尿閉をきたした腎滑膜肉腫の1例』



日本肺癌学会関西支部会 優秀演題賞

内科学I教室 吉田 修平 先生 (レジデント)

平成21年2月7日 大阪市・薬業年金会館で開催されました日本肺癌学会関西支部会 (第89回) にて吉田修平先生が優秀演題賞を受賞されました。

演題：『医学生に対するがん診療における“悪い知らせ”を伝えるコミュニケーション技術研修 (CST) の有用性の検討』  
指導者：内科学I教室 藤阪 保仁 助教 (准)



指導者の藤阪助教 (准) (左) と吉田先生

### 研修医が選ぶ平成20年度の「ベスト研修医賞」

研修医による「二年目の研修医のうち基本的な診療能力 (態度、技能、知識) や医療人として必要な基本姿勢・態度に優れ、代表として最もふさわしいと思う人物」の選考を行った結果、第1回のベスト研修医賞に金子貴雄研修医が選ばれ、3月30日 (月) に举行された研修修了式において花房病院長より賞状と記念品が贈呈されました。





### 第4回（平成20年度）鈎奨学基金授賞式

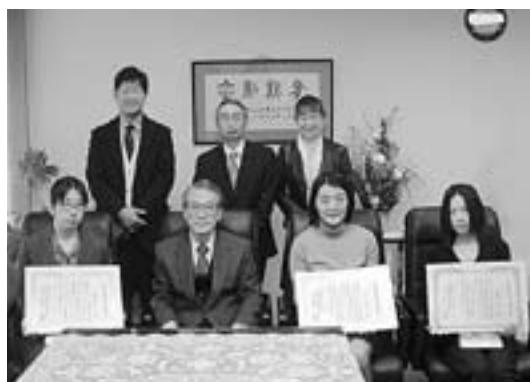
日 時：平成21年3月17日（水）11時～  
場 所：本館図書館棟1階 学長室

#### 『鈎奨学基金研究助成賞』

泌尿生殖・発達医学講座 産婦人科学教室  
講 師（准） 田辺 晃子

#### 『鈎奨学基金学術奨励賞』

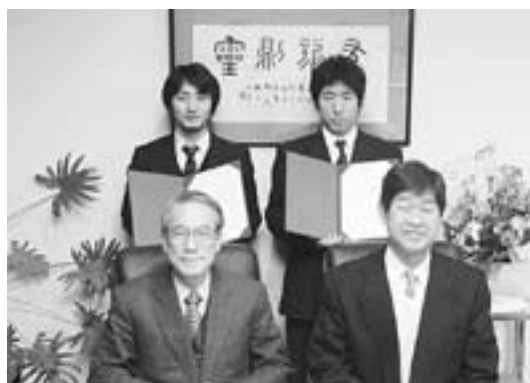
平成20年度 第1学年 青木 邦江  
平成20年度 第4学年 松波 小百合



### 第3回（平成20年度）伊藤奨学基金授与式

日 時：平成21年2月23日（月）17時15分～  
場 所：本館図書館棟1階 学長室

平成20年度 第1学年 柏谷 貴之  
平成20年度 第2学年 安永 元樹  
平成20年度 第6学年 坂谷 彰彦（授与式欠席）



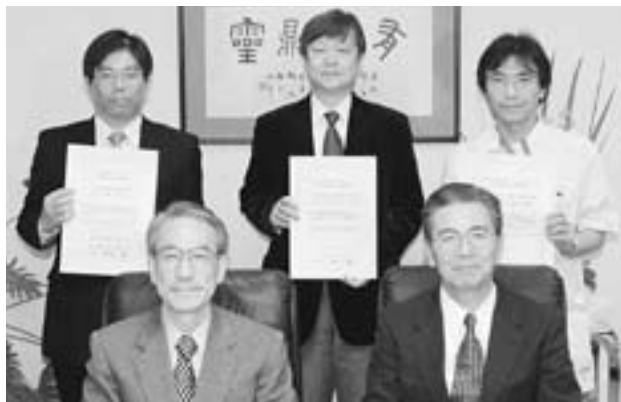
### 平成20年度 大阪医科大学給付奨学生

平成20年度大阪医科大学給付奨学生（特待生）は、下記のとおりです。

<b>第1学年</b>	増田 裕一	田淵 盛衛	岩崎 朋	横川 愛	光藤 詩織
	鈴木 悠介	柏谷 貴之	高木 麻衣	西村 時紘	卜部 馨介
<b>第2学年</b>	宮岡 愛	草田 夏樹	黒岡 佑介	松井 將太	岸森 健文
	南 景子	武田 豊子	丸尾 理沙	野木優香子	野村 悠文
<b>第4学年</b>	足立 玲子	中西 祐介	上原 尚子	田中 稔恵	森田 充紀
	辻 有希子	齋藤 賢吉	藤本 尚子	布出 実紗	西井 由佳

### 第3回 研究機構OMC学術フロンティア研究奨励制度 奨励賞授与式

平成21年4月10日に学長室に於いて第3回研究機構OMC学術フロンティア研究奨励制度奨励賞授与式が開催されました。



①受賞者：宮武伸一 准教授  
(外科学講座 脳神経外科学教室)  
研究課題：『硼素中性子捕捉療法によるCancer Stem Cell 治療抵抗性克服の試み』

奨励金：300万円

②受賞者：東 治人 准教授  
(泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室)  
研究課題：『局所浸潤性膀胱癌に対する「血流閉塞バルーン付カテーテルを用いた抗癌剤動注(BOAI) + 血液透析(膀胱灌流後抗癌剤除去)、および放射線照射併用療法」の治療効果』

奨励金：100万円

③受賞者：高井真司 准教授(生命科学講座 薬理学教室)  
研究課題：『生活習慣病におけるキマーゼの病態生理学的役割の解明』

奨励金：100万円

7名(グループ)、8研究課題の中から、上記3名が平成21年度の奨励賞を授与されました。



学内の英知を結集した共同研究を立ち上げて、より高度の研究成果を得ることを目的に『隣の研究室の研究内容を学ぼう』をスローガンに「研究機構シンポジウム」を平成17年より行い、その中で、少しずつ複数教室による共同研究が発足している状況にあります。今回の奨励賞を授与された3件の研究テーマはそうした流れにも添って発展してきたものであり、本学を代表する研究に成長しています。COE等(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)に応募するに足る研究の育成を目的にしている本研究奨励制度が更にその成果を発揮する為にも採択された課題に関して、助成金の授与ばかりでなく、他の学内研究者の意見も反映させながら研究機構で育てていくという姿勢を堅持したいと思っています。

OMC学術フロンティア研究奨励制度委員会 委員長 谷川允彦

お問い合わせ先：研究機構事務室(内線3401、E-Mail crlkikou@art.osaka-med.ac.jp)

このたび、中央検査部は、大学ならびに附属病院関係者のご協力により、ISO15189認定を取得することが出来ました。

【国際規格ISO15189認定について】

ISO（国際標準化機構）15189認定とは、臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を満たしており、その職務を継続する能力があることを日本適合性認定協会（品質・環境マネジメントシステムおよび試験所の適合性評価制度全般に関わる日本唯一の非営利認定機関であり、国際相互承認グループです）が公式に認めるものです。

具体的には、検査部の方針・目標、組織体制、職務規定等各種品質マニュアル、医師への検査案内、採血・採尿から結果値報告までの手順書、各検査項目・使用機器標準手順書、精度管理データ、安全管理・感染対策マニュアルおよび使用機器保守・管理記録などの文書類が国際規格の要求事項を満たしており、それらのマニュアル通りに実施されているかが確認されます。

また、審査員が持参した試料を臨床検査技師が測定して、その結果値について妥当性の確認ができるか、血液検査や化学検査、細菌検査の技術・知識が基準に達しているかを審査されます。これらの事について適格な能力を有しているか評価され、今後継続的に改善されるシステムができていくことなどが認められた場合に認定を受けることができます。

【国際規格ISO15189認定を取得した目的】

臨床検査は検査に用いる機種、試薬によって結果が多少乖離することがあります。従って同じ検査項目でも病院によって多少基準値が異なることがあります。このため現在、日本臨床検査技師会・日本臨床検査医学会、日本医師会が検査データ標準化に取り組んでおり、どこの病院で検査しても同じ結果になるように努力しています。当検査部は国際規格認定を取得することが検査データ標準化に近づくことだと思っています。今後、海外での国際的共同臨床試験に参加する時にも必要な資格になりつつあります。

また、患者様に安全で良質な医療を提供するために、中央検査部は精確な臨床検査データを迅速に報告するように努め、採血時の安全性、待ち時間の短縮、採血の少量化、また、検査機器の統合や試薬の変更による報告時間の短縮などサービスの改善に取り組んでまいりました。さらに向上させるために、当検査部の品質および能力が国際規格の要求事項を満たしているか第三者の目で評価してもらい、不備な点を指摘してもらって改善することに致しました。認定を取得することにより、患者様に安全で良質な医療を継続的に提供できると考えています。



## 平成20年度 第三回 学位記授与式

日 時： 平成21年3月27日(金) 午後3時～  
 場 所： 別館1階 講堂  
 大学院医学研究科修了者(甲) …17名  
 論文提出者(乙) ……………4名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第821号	青木 宏明	<b>Nanotransportation system for cholera toxin in <i>Vibrio cholerae</i> O1</b> ( <i>Vibrio cholerae</i> O1菌体内におけるコレラトキシンのナノ輸送システムに関する研究)
甲第822号	安賀 文俊	<b>Diagnostic Accuracy of Fused SPECT-CT Images in Comparison with CT, CE-CT, and SPECT for Diagnosis of Pulmonary Thromboembolism</b> (肺塞栓症における、SPECT-CT融合画像と単純CT、造影CT、SPECTとの診断能の比較について)
甲第823号	天野 信行	<b>Possible roles of mast cell-derived chymase for skin rejuvenation</b> (肥満細胞由来キマーゼのskin rejuvenationに対する関与)
甲第824号	井上 奈緒	<b>Effects of chymase inhibitor on angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm development in apolipoprotein E-deficient mice</b> (アポリポプロテインE欠損マウスを用いたアンジオテンシンII誘導性大動脈瘤モデルにおけるキマーゼ阻害薬の効果)
甲第825号	大塚 薫	<b>Suppression of inflammation in rat autoimmune myocarditis by S100A8/A9 through modulation of the proinflammatory cytokine network</b> (S100A8/A9は、炎症促進性サイトカインネットワークを修飾することによりラット自己免疫性心筋炎における炎症を抑制する)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第826号	大西 恭子	<b>Evaluation of the biological effects of boron neutron capture therapy for the human malignant meningioma cell line IOMM-Lee</b> (ヒト悪性髄膜腫のcell lineであるIOMM-Leeに対する硼素中性子捕捉療法の生物学的効果についての検討)
甲第827号	黒川 憲史	<b>Application of cultured dermal substitute for amelioration of maxillary bone growth suppression after cleft palate operation in rats</b> (培養真皮を用いた口蓋裂手術後の上顎骨発育抑制軽減に関するラットでの検討)
甲第828号	島原 武司	<b>Delivery of sodium borocaptate (BSH) to oral squamous cell carcinoma cells by transferrin-PEG liposomes</b> (トランスフェリンPEGリポソームを用いた口腔扁平上皮癌細胞へのボロカプテイト(BSH)送達の検討)
甲第829号	孙 焯 (孫 焯)	<b>Ultrasound parameters of bone health and related physical measurement indicators for the community-dwelling elderly in Japan</b> (地域在住高齢者における超音波骨量に関連する客観的な身体指標について)
甲第830号	田中 俊充	<b>Gefitinib Radiosensitizes Non-Small Cell Lung Cancer Cells by Suppressing Cellular DNA Repair Capacity</b> (ゲフィチニブのDNA修復能抑制による非小細胞肺癌に対する放射線増感効果に関する検討)
甲第831号	谷本 啓爾	<b>The influence of age on the GH-IGF1 axis in patients with acromegaly</b> (先端巨大症の血中GH、IGF1値における年齢の影響に関する検討)
甲第832号	土居 温	<b>Tumor-specific targeting of sodium borocaptate (BSH) to malignant glioma by transferrin-PEG liposomes: a modality for boron neutron capture therapy</b> (硼素中性子捕捉療法における硼素化合物 (BSH) 包埋型トランスフェリン-PEG-リポソームの有用性)
甲第833号	新田 敏勝	<b>Study of clinicopathological factors associated with the occurrence of synchronous multiple gastric carcinomas</b> (同時性多発胃癌発生に関与する臨床病理学的因子の研究)
甲第834号	東野 昌子	<b>IL-4-dependent induction of IgE<sup>+</sup> basophils in peripheral blood and IgE<sup>+</sup> B cells in spleen as respective indicators of allergen sensitization and a precursor of cells secreting allergen-specific IgE antibody</b> (末梢血中のIgE陽性好塩基球および脾臓のIgE陽性B細胞がアレルゲンでの感作の指標および抗原特異的IgE抗体を分泌する形質細胞の前駆細胞としてそれぞれIL-4依存的に誘導される)
甲第835号	樋口 由美	<b>Mobility assessments as predictors for decline of higher-level functional capacity in community-dwelling elderly</b> (地域高齢者における生活機能低下の予測因子としての移動能力評価)
甲第836号	藤本 圭一	<b>An Approach for Bio-monitoring Exposure to Cadmium Hydroxide in Nickel-Cadmium Battery Factory Workers: Impact of Cadmium Levels in Air and Exposure Period on Urinary Cadmium Excretion</b> (カドミウム暴露作業者の生体モニタリング指標の検討：気中カドミウム濃度と就業期間が尿中カドミウム排泄に与える影響について)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第837号	松本 和子	<b>N-Glycan fucosylation of epidermal growth factor receptor modulates receptor activity and sensitivity to epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor</b> (上皮成長因子受容体のN型糖鎖のフコシル化は受容体の活性と上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害薬に対する感受性を制御する)
乙第1068号	芥川 寛	直腸カルチノイドの病理学的研究 ( <b>Pathological study of the rectal carcinoid tumors</b> )
乙第1069号	中井 豪	<b>Detection and evaluation of pelvic lymph nodes in patients with gynecologic malignancies using body diffusion-weighted magnetic resonance imaging</b> (拡散強調画像を用いた婦人科悪性腫瘍患者における骨盤リンパ節の描出と評価)
乙第1070号	谷川 淳	<b>The influence of strut thickness and cell design on immediate apposition of drug-eluting stents assessed by optical coherence tomography</b> (光学干渉性断層撮影法により評価した薬剤溶出性ステントの急性期圧着に及ぼすストラット厚とセルデザインの影響)
乙第1071号	武石 宏	① <b>Development and Validity of Experimental Phantoms to Examine Metallic Artifacts on MRI</b> <b>-The Effect of Agar on MRI-</b> (MRIにおける金属アーチファクトに関する実験用ファントムの開発と妥当性 -MRIにおける寒天の影響-) ② <b>An Experimental Study of the Appearance of Metallic Artifacts on MRI</b> <b>-Artifacts Caused by Dental Alloys-</b> (MRIにおける金属アーチファクトの出現様相に関する実験的研究 -歯科用合金によるアーチファクトについて-)

新講義実習棟トイレ内のジェットタオル（ハンドドライヤー）設置について



平成17年12月新講義実習棟が竣工されて以降、トイレ内のジェットタオル（ハンドドライヤー）は未設置のまままで現在に至っていました。その間、「学生の声」からも強い要望がありました。

法人に予算をお願いし、今般、新講義実習棟内全て（17箇所）のトイレに、ジェットタオル（ハンドドライヤー）が設置されました。

学生諸君には、大切に使用して頂きたいと思います。

教育機構長  
大槻 勝 紀

## ■平成20年度 大学院医学研究科FDワークショップ 開催報告

平成21年1月31日（土）午後1時より本館・図書館棟4階第1会議室及び学習室において、平成20年度大学院医学研究科FDワークショップが開催されました。FD（Faculty Development）とは、教員が授業内容や方法を改善して向上させるための組織的な取り組みの総称であり、大学院については平成19年度より義務化されています。今回は第2回目の開催となり、大学院教育の実質化（組織的展開の強化）に向けた本学大学院の今後の取り組みをテーマとして、南大学院委員会委員長の基調講演とグループワークを行い、その後、各グループの発表と質疑応答を行いました。



大学院医学研究科は、平成21年度より、進展著しい医学環境により対応し、専攻や分野の枠を超えて大学院の目的と教育内容を明確にして組織的に教育活動を展開していくために、従来の5専攻（系）を一本化して「医学専攻」に改組することとしました。また、医学専攻の設置に伴い、現代社会の多様なニーズに対応できる目的別のコースを導入して統合教育を展開することで、広範な研究が展開できるとともに、目的に沿った幅広い臨床能力を身につけた研究者および高度医療人の養成を目的として、コース制（予防・社会医学研究、

生命科学研究、高度医療人養成、再生医療研究、先端医学研究の5コース）を導入することとしました。これらを踏まえ、大学院教育の充実・強化を図る観点から、現状の大学院教育と課題を認識し、今後取り組むべき問題点を共有して、特色ある施策展開へと図ることを目的としてFDワークショップを開催し、38名の教員が参加して活発に意見交換がなされました。

基調講演では、南大学院委員会委員長より、現在の大学院教育を取り巻く環境、最近の法改正等の状況、大学院の現状と課題、平成21年度からの専攻改編などについて説明がなされ、参加者は大学院の現状と課題について熱心に聞き入っていました。



また、グループ討議では、A「学院教育の現状と課題について」、B「大学院の魅力ある教育内容について」、C「大学院の社会人入学対策・志願者確保について」、D「大学院在学中における臨床・教育・研究の両立策について」という4グループに分かれて意見交換を行い、各グループから各テーマに沿って様々な

提案等が発表され、今後の大学院教育の高度化に向けての検討事項となりました。

今後も大学院教育と研究の充実を目指してFDワークショップを積極的に開催していく予定です。

大学院医学研究科  
学務部 大学院課

## 教育センター

### ■平成20年度教育センターレクチャーシリーズ

教育センターは平成20年度のFD活動として、教育センターレクチャーシリーズをはじめ以下の通り6回の講演会を行った。毎回数十名の参加者があり、本学の医学教育を考える上で重要な機会を持つことができた。さらに平成20年度は毎年開催している総合教育、PBL、OSCEのワークショップに加え、平成21年2月5日～7日、イギリスからダンディー大学医学教育センター、Margery DAVIS教授を招聘し、医学教育講演・ワークショップを開催した。この講演会ワークショップは全国から100名近い参加者があり、先進の「ポートフォリオ評価」を中心に熱心な討議が行われた。

回	日 時	演 題	講師／演者等
第1回	平成20年5月14日(水) 17時30分～19時30分	「PBLについて考える－ ハワイ大学での体験談報告－」	教育センター・本学学生
第2回	平成20年5月16日(金) 16時～	「PBLチュートリアルの動向 Maastricht大学の実践」	教育センター 宮本 学
第3回	平成20年7月11日(金) 17時30分～18時30分	「発生工学、再生医療 ～ES細胞を中心にして～」	東京大学医科学研究所 ヒト疾患モデル研究センター 遺伝子機能研究分野 教授 吉田 進昭
第4回	平成20年8月8日(金) 17時～18時	「マーストリヒト大学の スキルラボ」	マーストリヒト大学 Dr. Johannes Jozef Eduard Rethans
第5回	平成20年10月7日(火) 11時～12時	「JABSOMの周知な教育－ ハワイ大学の医学教育」	ハワイ大学医学教育室 プログラムアドバイザー Prof. Mitsuaki Suzuki
第6回	平成20年11月11日(火) 17時～18時	「大学教育における Moodleの活用」	エミットジャパン 代表取締役 日本女子大学 非常勤講師 小村 道昭氏

### ■平成20年度提供講座（「医療をとりまく社会環境」）実績報告

平成20年度カリキュラムの中で提供講座（「医療をとりまく社会環境」）を以下スケジュールで開講しました。

- ・対象は第4学年、1月2コマ（通算0.5単位）の必須講義
- ・野村證券（提供元）からの講師派遣（特別講師）、所属講座は教育センター

講座名	『人口減少に挑む 日本～効率的な医療 制度の構築に向けて～』	『産学連携創薬を 考える～インター プロテイン株式会 社を題材として』	『医療とITと経営』	『バイオベンチャー の現状と関西の バイオクラスター の形成について』	『新しき－美科学 －の時代に思う』
開講日	平成20年10月8日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成20年10月22日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成20年11月19日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成20年12月10日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成21年1月14日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10
講義場所	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂
受講学生数	99名	101名	102名	97名	101名
講師氏名	西 澤 隆	細田 雅人 福田 伸生	森川 富昭	谷 正之	藤島 博文
現職	野村証券金融経済研 究所経済調査部次長 兼経済解析課長	インタープロテイン 株式会社 代表取締役社長 株式会社 ジャフコ 第三投資運用本部長	徳島大学医学部・ 歯学部付属病院 医療情報部 准教授	バイオサイトキャピ タル株式会社 代表取締役社長	日本画家 日展会員・審査員



## ■マヒドン大学医学部学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成21年1月26日(月)から2月6日(金)までタイ国王立マヒドン大学シリラート病院医学部学生Chairat Sriphirom君とNapat Saigosoomさん(4年次終了)が、海外選択臨床実習の一環として相互交流協定に基づいて本学附属病院、北摂総合病院などで研修を受けました。

学生達は研修内容やキャンパス案内などのオリエンテーションを受けた後、予めリクエストのあった診療科で本学5年生と共に研修を受けました。第1週目は脳神経外科、胸部外科、麻酔科、産婦人科、第1内科で、また第2週目は北摂総合病院、衛生学・公衆衛生学、第3内科、整形外科で実施されました。

タイ国の医学教育はわが国と同じく6年制であり、今回研修を受けた学生は4年次を終了(臨床実習は1年間受講済み)しての参加でした。彼らの気風や生活習慣はこれまでの海外からの医学生ともまた異なり、指導していただいた教職員や、実習を共にした本学学生にとっても大変刺激になったと思われます。当初心配した高槻での生活にもスムーズに溶け込めた様子で、終了時の評価は良好であり、今後の両大学相互交流への大きな一歩となりました。



看護学校見学

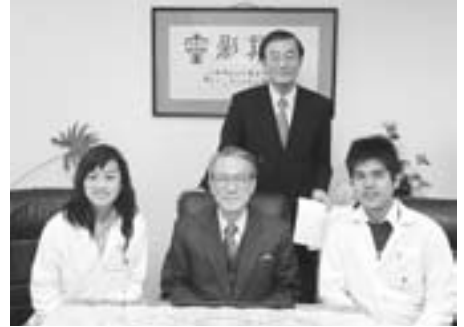
このたびの研修に際し、ご指導いただいた本学教職員各位、北摂総合病院木野院長、スタッフの皆様、また臨床実習のエスコートをしていただいた5年生、国際交流部を中心とした学生諸君に改めて御礼申し上げます。

以下、マヒドン大学の学生からのメッセージをご紹介します。

Konnichiwa Minnasan,

This is the first time for me to be an exchange student and also be the first time for me to visit Japan.

For 2 weeks which I have spent at Osaka Medical College (OMC) and Hokusetsu General Hospital. It is excellent elective program. From the first until the last day, I experienced many good things such as the best care from everyone at OMC, Prof. Kono, Kumisan and Ogawasan who take care us for everything, more medical knowledge from the best professor and doctor of all department especially Prof. Hanafusa, Dr. Doi (for your questions and answer in Anesthesiology), Dr. Nemato, Dr. Watanabe, Dr. Yamashita (who make me happy all day), Dr. Terasaki, Dr. Kinn and Dr. Kino at Hokusetsu General Hospital, good friendship from OMC students who take care us when me and Napat studied (Mr. Kanzaki, Mr. Kikukawa, Ms. Miyamoto), two friends who



学長室にて  
前列左よりMs.Napat Saigosoom、植木学長、  
Mr.Chairat Sriphirom 後列 河野センター長



弓道部見学



内科外来にて

will see us again in Thailand (Hitomi and Junichi) and everyone who take us to travel and have “Oishi” dinner in Kobe, Emisan who take us to Nara which I’m very impressed and the last is Nakayama center which give a good care, great dinner, enjoyable trips and the best schedule in OMC.

I’d like to say “ありがとうございます” and this exchange program will be in my mind forever. Hope to see you in Thailand !!!

Chairat Sriphirom

First and foremost, I would like to thank everyone who organized this exchange program from Osaka Medical College for giving me a memorable experience. I would like to thank all the doctors, staff and Osaka’s medical students who spent their valuable time in welcoming me and taught me much knowledge. I have learnt so many things from here including observing the operation of meningioma, brain metastasis and mitral regurgitation, all of which are really helpful to me. I am also grateful to have a chance to visit NICU whereby I had a great opportunity to hold a newborn baby for the first time in my life and observed how to check a normal newborn baby. Although we may have experienced a language barrier, the staff and medical students tried their best to explain the medical knowledge to me. They even opened the dictionary so as to explain me in English. Some borrowed the Thai travel book to talk with me about Thailand. I will never forget OMC’s staff and students for their kind attention.

Additionally, I would like to thank all the doctors and staff from Hokusetsu general hospital who took me around the hospital, explained me about Japan educational system and taught me many things whether the knowledge about bedside of cardiology, laparoscopic operation of colonic cancer or hysterectomy.

Most importantly, I have learnt about Japanese’s culture especially their polite and humble characteristics. Though previously I had several chances to visit Japan as a tourist, coming here as an exchange student has even impressed me more. This trip has indeed given me invaluable experience that I will never forget. I will definitely leave Japan with wonderful memories and unforgettable experience. I will surely bring back the knowledge that I have learnt from here to apply in my home country. I hope in one day I’ll have a chance to return to this place where I always find generosity and hospitality again.

Yours thankfully,

Napat Saigosoom



### ■マヒドン大学医学部シリラート病院との国際交流協定の締結について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成21年3月5日(木)、タイ国王立マヒドン大学医学部シリラート病院・医学部長Teerawat Kulthanan教授をはじめ副学部長・国際交流担当Pakit Vichyanond教授、副学部長・学部教育担当Nisarart Opartkiattikul准教授、副学部長・学生管理担当Apichat Asavamongkolkul准教授を迎えて国際交流協定の調印式が行われました。

マヒドン大学医学部は創立以来120年の歴史を持つ、タイ国屈指の大学医学部であり、首都バンコク



看護学校にて  
左より 西山副看護学校長、河野センター長、  
Pakit Vichyanond教授、  
医学部長Teerawat Kulthanan教授、  
Nisarat Opartkiattikul准教授、  
Apichat Asavamongkolkul准教授

で最大級のシリラート病院をベースに、タイ王室との繋がりも深い大学です。

マヒドン大学からは本年1月に本調印を前提として2名の学生が本学で臨床実習を受け（本学報掲載）、また3月9日（月）から2週間にわたり本学5年生2名が、交流協定に基づいてシリラート病院で臨床実習を受けています（次号掲載予定）。

調印式は本学植木学長、センター運営委員でもある花房病院長、大槻教育機構長、米田教育センター長、また今回の交流の橋渡しをしていただいた北野蓉子大阪国際音楽振興会専務理事（本学3年北野裕孝君のご母堂）らの同席により行われました。

協定書は2通（英語）作成され、その内容は学部学生、大学院生および教職員の教育、研究など相互交流に関する大学

間の覚書で3年ごとに見直されることになっています。

Kulthanan教授らは翌3月6日（金）の本学卒業式にも参列され、また謝恩会では海外の交流大学を代表して、卒業生への祝辞を述べていただきました。今回は3日間の短い高槻滞在でしたが、本学や看護専門学校など諸施設の見学などもされ、その充実ぶりには大変感嘆しておられました。

今後協定書の締結を機会に両大学の医学交流がますます活発になることが期待されます。



調印式にて  
左より Nisarat Opartkiattikul准教授、  
医学部長Teerawat Kulthanan教授、  
植木学長、河野センター長



協定文書

## ■Margery H. Davis 教授および、Bassem Yousef Sheikh 准教授の本学での教育講演・ワークショップについて

教育センター 宮本 学

平成21年2月5日（木）～7日（土）、英国・ダンディ大学医学教育センター所長Davis教授とサウジアラビア・タイバー大学脳神経外科・教務副委員長Sheikh准教授が本学での教育講演・ワークショップのため来訪されました。私学助成金「ポートフォリオの開発」の一環として教育センターと中山国際医学医療交流センターの共催でこの企画は実現しました。

Davis教授は医学教育に関する世界的第1人者であり、なかでもダンディ大学の「ポートフォリオ」は臨床実習評価の世界標準とされています。

## 中山国際医学医療交流センター

2月5日(木)は、「ダンディ大学の医学教育」のタイトルでのDavis教授の教育講演でした。参加者は40名(学外17名、学内23名)でした。学外からの参加者は北海道から九州まで、また佐賀医大の総合診療部に留学中のインドネシアの先生2名の参加もあり国際色豊かな会となりました。

6日(金)、7日(土)は、ワークショップで「アウトカム基盤型カリキュラムとポートフォリオ」、「ポートフォリオに用いられる評価ツール」、「どの評価ツールでどのアウトカムが評価されるか」のレクチャーと小グループにおけるワークショップを行いました。

教育センターの「良質の医学教育を日本にそしてわが校へ」の意図が通じ、参加者がいつまでも話を続けたあと、名残惜しそうにやっと帰途につかれたのが印象的でした。

Sheikh准教授は脳神経外科学、特にendovascular surgeryの世界的権威であり、教育面では教務副委員長をされています。こちらも同じく私学助成金で招聘しました。2月6日(金)のワークショップでは、「サウジアラビアの医学教育」のタイトルで講演していただきました。

サウジアラビアの医学教育は、英国・オランダなど世界の医学教育先進校からの指導もあって日本よりも進んでいると感じました。各国の参加者も興味津々で質問が相次ぎました。

中山国際医学医療交流センターからはDavis教授にHonorary Professorの授与が、Sheikh准教授にはVisiting Professorの授与がおこなわれ、両大学のさらなる交流に向けて一歩を踏み出しました。

このような国際的な医学教育講演・ワークショップの開催は本学では初めてでしたが、中山国際医学医療交流センター長・河野公一先生、教育センター長・米田博先生のご尽力により無事に終わる事が出来ました。ご協力下さいました事務員の方、関係各所の皆様に厚くお礼申し上げます。



中山国際医学医療交流センターにて  
左よりBassem Yousef Sheikh准教授、  
河野センター長、Margery H. Davis教授、  
米田教育センター長、宮本講師

## ■米国・トーマスジェファーソン大学救急医療部准教授来訪について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成21年3月27日(金)、米国フィラデルフィアのトーマスジェファーソン大学救急医療部のO'Malley准教授夫妻が本学を訪問され、大学キャンパスおよび附属病院を花房病院長と共に案内しました。

O'Malley夫人は旧姓永國里可さんで、本学を平成6年に卒業され沖縄の米軍病院を経て現在同大学の連携病院でもある



7A EVロビーにて

アルバートアイ  
ンシュタイン医  
療センター救急  
医療部に勤務さ  
れています。学  
生時代は剣道部

に属され、彼女を知る先生も多いと思います。

当日は大学院学位授与式とも重なり、あまり時間が取れなかったのですが、学生交流についても具体的な話をしま



学長室にて  
前列左より Gerald Francis O'Malley准教授、  
植木学長、Mrs.Rika Nagakuni O'Malley  
後列 河野センター長

した。早ければ今年度中に救急医療分野の病院見学・実習などが計画される予定です。

## ■海外交流支援制度について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

海外交流支援金支給者で、本学公衆衛生学大学院に中国から4年間留学生として在籍し、在学中中山国際医学医療交流センター主催の国際交流シンポジウムで毎年スピーカーとして活躍いただき、また中国医科大学との交流協定締結にも尽力いただいたスン・ウェイさんがこのたび学位取得後、母校の中国医科大学公衆衛生学大学院の講師に採用されました。スン・ウェイさんからの文章を以下掲載いたします。

### My study for PhD degree in Osaka Medical College

Wei SUN

School of Public Health, China Medical University

I am a PhD student with Professor Koichi Kono in the Department of Hygiene & Public Health. In 2009, I succeeded in my PhD degree. Over the last 4 years, I studied with my supervisor Dr. Misuzu Watanabe and conducted the research in the field of health promotion for the aged. Since Japan has been a nation with the most serious aging problem in the world, I had a great opportunity to access to the aging situations and the strategies aiming at the promotion of quality life of the elderly. With the papers that I wrote and published in the international journal while I studied for PhD degree, I get lecturer position in China Medical University, which provided a good start for my scientific career in China.

Since I joined in the Department of Hygiene & Public Health, Osaka Medical College in 2005, I have been attracted by the good teamwork. Also, the cordiality of Osaka people impressed me firmly. With lots of help from Prof. Kono, Dr. Watanabe and other people, I never sank in the anxiety as a foreigner with language barrier during 4 years.

My study in Japan will become a part of my life in spite of only memory. With those valuable experiences, nothing can frustrate me anymore, not only in my career but also in my lives. Words are not enough to express my heartfelt gratitude for my teachers and friends in Osaka Medical College.



スン・ウェイさん誕生日のお祝い  
公衆衛生学教室仲間と



フィンランド・タンペレにて  
公衆衛生学教室・歯科口腔外科学教室の方々

### 平成20年度卒業証書・学位記授与式

日 時： 平成21年3月6日(金) 14:00～  
場 所： 新講義実習棟1階 P101号室  
医学部医学科卒業生 98名



#### ■平成20年度 卒業式 告辞

学長 植木 實

皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、ご出席頂きましたご両親様、ご家族の方々もさぞお慶びのことと拝察申し上げます。

本日はご多忙の中ご来臨を賜りました関西医科大学 山下学長、高槻医師会 甲斐会長、仁泉会 榎原理事長、本学P A会 丸川会長をはじめ、本学法人役員並びに元学長、名誉教授の皆様方に厚く御礼申し上げます。

そして、今日は特別のお客様として本学と学術交流を始めますタイ国の王立大学でありますマヒドン大学医学部シリラート病院のTeerawat Kulthanan医学部長をはじめ4人の先生方にご出席頂いております。昨日、マヒドン大学医学部シリラート病院と大阪医科大学は、学術並びに学生交流の協定書にお互い調印致しましたことを、ここにご報告申し上げます。

Ladies & gentlemen, I would like to introduce you to our distinguished guests from Mahidol University, Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Thailand.

Dean, Clinical Professor Teerawat Kulthanan, Deputy Dean, Professor Pakit Vichyanond, Deputy Dean, Associate Professor Nisarath Opartkiattikul and Deputy Dean, Associate Professor Apichat Asavamongkolkul, we are very proud to welcome you to Osaka Medical College. Thank you very much for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College.

We are pleased to have completed the signing for our academic and educational exchange between Mahidol University, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, and Osaka Medical College yesterday.

We very much hope our exchanges will continue forever and develop deeper from now on.

Thanks again for your visit this time.

どうぞ遠来のお客様とご来賓の皆様には、拍手をもって歓迎の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました。

ここで、皆さんの卒業までを振り返りますと、中学・高等学校から医学部を目指して勉強され、大阪

医科大学にご入学、この度6年間の学習と研修をすまされて無事卒業されました。勿論、青春の長い間、諸君は自分自身、相当な努力をされてきたと思いますが、ご両親、保護者の方々の多大の庇護と愛情、そして先生方、友人のお蔭であり、また国の支援もあったことを知ってほしいと思います。これらのことを今日、改めて認識し、感謝の気持ちを生涯忘れないで頂きたいと思います。

さて、大阪医科大学はさらなる発展を目指し、現在種々の改革を進めておりますが、皆さんに関係がある事項をいくつかご紹介したいと思います。1つには学位と専門医が同時に取得できるよう大学院改革を行ったこと、2つには文部科学省の大型事業である「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に本学のプランが採択され、研修医修了後の若手医師に求められるキャリア形成コースを設けたこと、そして3つ目には、女性医師の子育てや介護期間等に適用される短時間正職員制度を設け、安心して働けるシステムを作ったことであります。

このように、皆さんに関係する事項のみ申し上げましたが、他にも多くの改革が推し進められており、本学は本邦で屈指の医科大学を目指して確実に発展を進めております。皆さんの中には、外部病院で研修をされる方も多いかと思いますが、その後はぜひ本学へ戻ってさらに自分を磨いてほしいと希望致します。

最後に、皆さんのご卒業に際しまして、私が最近特に感動した言葉、考え方をご紹介したいと思います。少し前に、NHKテレビ『プロフェッショナル－仕事の流儀－』という番組で、アメリカの大リーグで活躍していますイチロー選手を取り上げていました。彼は、皆さんもご承知のように世界トップレベルの選手が集まる中で7年も8年も攻・守・走ともに優れた成績を上げ、そしてそれを維持しながらさらに記録を伸ばし続けています。彼のその凄まじい精神力は一体何なのか…。

彼は番組の中で「自分のやり方を貫くためには、自己評価が一番厳しいものでなければいけない。」とし、「誰の評価よりも自分の評価、自分に対する客観的な評価が一番厳しいものでなければならない。」と語っていました。また、彼は「自分の可能性を広げるためには、自分で自分を教育するしかない。」とも述べています。

私はこの番組を観た後、イチロー選手が故障もせず、しかも素晴らしい成績を上げ続けている原動力は、徹底した自己管理を行い、或いは自己管理を課しているからこそできることだと思いました。

皆さんがこれから人間性豊かな臨床力のある立派な医師に成長するには、自ら目標を定め、それに向かって自己管理をしていくことが極めて大切であります。この卒業という大きな人生の節目に、ぜひ目標を立て、自己管理を始めて頂きたいと念願致します。

そして諸君は、巣立っていく大阪医科大学を誇りにし、“大学は皆のもの”という意識を共有しながら、皆さんと教職員、同窓会と力を合わせて大学のブランド力を高めようではありませんか。皆さんの成長が即、本学のブランド力であります。大阪医科大学は皆さんの成長を大いに期待致しますと共に、今後のご活躍を祈念申し上げます。

以上をもちまして、皆さんへの門出の詞と致します。本日はおめでとうございました。



新講義実習棟前にて

### 平成21年度新入生学外合宿

平成21年度医学部新入生に対する学外合宿が、京都厚生年金休暇センター「ウェルサンピア京都」（京田辺市）において、新入生113名と教職員約30名の参加のもと、4月7日（火）～9日（木）の2泊3日にわたり実施されました。

新入生達は、グループ討論、ビデオ鑑賞、救急蘇生、体験学習、先輩からのメッセージ、懇親会など多彩な日程の中でお互いの親睦を深めました。



### 平成20年度第2回災害対策講演会実施



平成21年2月27日（金）に平成20年度2回目の災害講演会を行いました。

今回は、受講者にも参加してもらい呈示症例のトリアージ実習を兼ねた講義方式で行いました。出席者は外部からの参加者を含め226名でした。

日 時：平成21年2月27日（金） 午後5時～6時

場 所：臨床第一講堂

講 師：独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター  
救命救急センター診療部長  
定光 大海 先生

### 褥瘡対策室講演会開催



日 時：平成21年1月27日（火） 午後5時～7時

場 所：臨床第一・第二講堂

演 題：「褥瘡予防とマットレスについて」

講 師：阪和第1泉北病院  
副院長 美濃 良夫 先生  
（日本褥瘡学会理事）

H P [床ずれ交番]

<http://www.tokozure-kouban.ne.jp/>



## 平成21年度 職員入職式



日 時：平成21年 4月 1日（水） 午前 9時30分～10時30分  
場 所：臨床第一講堂

看護部129名、技師・事務職等15名、計144名の入職式が行われました。辞令交付ののち、理事長、病院長から訓示があり、全員緊張した面持ちで式に臨んでいました。

## 平成20年度 附属看護専門学校卒業式・謝恩会



平成21年 3月10日

昨日までの悪天候は何処へやら…、暖かく晴れた3年間の完成を祝うに相応しい晴れの日となりました。苦しい時、辛い時共に過ごしてきたクラスともお別れの日、代表が落ち着いて「私達は今、新たなスタートラインに立ちました。看護師を志したあの日から、いくつもの壁を乗り越えてきました。でも職業人として社会に出て行くことはとても不安であり、これからも大きく高い壁に幾度もぶつかり、つ

まずくこともあると思います。時には前が見えず、走り続けることが辛くなることもあるでしょう。そんな時は一度立ち止まり本校での学びを思い出し、自分のペースで踏ん張っていきたいと思います。私達には仲間や先生方、家族と、患者様から頂いた『ありがとう』がいつも心の中にあります。今まで支えてくださった周囲の人々に感謝の気持ちを持ち続け、高い志を持って、自らの看護を模索する新たな旅に出発していきたいと思います。」と答辞を述べてくれました。

夕刻からは、高槻京都ホテルで謝恩会が行われました。卒業式の白衣に替えて、振袖、袴、ドレスと華麗に変身した卒業生が、今までお世話になった講師や、臨床の看護部長様、指導者の方々、これまでの思い出を語り楽しいひと時を過ごしました。

看護学校での3年間で自信にして、思い切り羽ばたいてください！



## 平成21年度 附属看護専門学校入学式



平成21年 4月 9日

桜満開の春爛漫のこの日、看護学科27回生63名（男子なし）は、福井県、石川県、宮崎県、鹿児島県…と今年も遠方からの入学生もあり、期待と不安に胸を膨らませ入学式を迎えました。




「本校の学生として、変化する社会の中で将来医療職として活躍できる看護職になるために、理想を持ち続け、誇り高く前進して欲しい」と来賓の方々や神谷新学校長から祝

辞を頂き、新2年生の代表からは「共に頑張っていきましょう」と歓迎の言葉をもらって、緊張の中にも士気が感じられる式となりました。

## 第4回治験説明会について

本年2月19日(木)、第4回治験説明会をリハビリテーション科・佐浦隆一科長ならびに神経内科・木村文治科長をお迎えして開催し、院内の医師、看護師、薬剤師及びその他職員を含めて90人以上にご出席頂きました。

米田博副院長による治験説明会開催のご挨拶に続き、治験センターCRC(治験コーディネーター)から「治験における倫理的配慮」について、インフォームドコンセントをより確実にを行い、患者さまの自由意思により参加して頂くようCRCの立場からどのように支援しているかを具体的に説明致しました。特別講演1では多くの治験を実施頂いている木村科長より、治験責任医師の立場から治験のメリット・デメリット、参加される患者さまの思い、治験の意義についてご講演頂きました。また、特別講演2では治験審査委員(IRB委員)でもある佐浦科長より、IRBの目的、審議事項、責務、当院におけるIRB活動の実際についてご講演頂きました。

※院内教職員・学生対象  
=====  
**第4回治験説明会のご案内**  
=====  
日時:平成21年2月19日(木)  
17:00~18:00  
場所:臨床第I講堂   
  
〈内容〉司会:臨床治験センター長 林 智也  
・「はじめに」 副院長 米田 博  
・「治験に参加していただく患者様への支援」  
~治験に参加する患者様の気持ちとCRCの倫理的配慮~  
臨床治験センター   
・「治験責任医師の立場より」  
神経内科 科長 木村 文治  
・「治験審査委員の立場より」  
リハビリテーション科 科長 佐浦 隆一   
・質疑応答  
皆様のご参加をお待ちしております。



神経内科 木村文治科長

治験における倫理性が問われている昨今、当センターとしても再認識する必要があると考えて選んだ今回のテーマでしたが、講師の先生にはそれぞれの立場で参加者にわかりやすくご講演頂き感謝しております。



最後に出席者にアンケートをご記入頂き、閉幕致しました。アンケートにて、「治験同意説明時の対応の標準化が必要だと思った」、「治験に参加した場合の費用軽減の実際が知りたい」、「CRCの苦勞がわかった」などのご意見を頂きました。皆様のご要望にお答えできるよう、今後も定期的な開催を予定しております。治験は、各科外来・病棟・検査部門・医事課をはじめとする院内各部署のご協力がなくては実施できません。今後もこのような機会を通して、院内各部署の方々に治験について理解を深めて頂きたいと考えております。



リハビリテーション科 佐浦隆一科長

**病院医療相談部 第6回連携実務者会議開催**

平成21年2月27日（金）午後4時から歴史資料館3階 大学院多目的講義室にて、第6回連携実務者会議を行いました。

「顔の見える医療連携」を目指し、より一層の連携充実を図ることを目的として、24病院、43名にご参加いただきました。

今回は病院医療相談部 角江課長より病院における「医療コンフリクト・マネジメント」についての話題提供をいただき、ADR・苦情対応について解りやすく説明していただきました。

講演後に実施したアンケートでも、「医療メディエーターをよく知らなかったので大変参考になった。」「苦情対応のリアルな現場のお話を聞いてよかった。」「苦情・紛争等の、対応の根本を学ぶことが出来た。」等の感想が多く寄せられました。

また、会議終了後の懇親会でも、活発な情報交換を行うことができました。今後もこの会を発展的に進め、各病院からの意見・問題点を提議いただき充実を図りたいと考えます。



**■主な行事日程(平成21年6月～平成21年8月)**

6月1日(月)	創立記念日	7月14日(火)	理事会
3日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会	15日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
9日(火)	理事会	18日(土)	医学部夏期休業(～8月30日)
10日(水)	大講座主任教授会 医学会春季学術講演会	21日(火)	看護専門学校夏期休暇(～8月31日)
17日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会	22日(水)	病院運営会議
20日(土)	平成21年度第3回市民公開講座	26日(日)	オープンキャンパス(第1回)
24日(水)	病院運営会議	8月5日(水)	診療科長会
25日(木)	さつき会総会	11日(火)	理事会
7月1日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会	23日(日)	オープンキャンパス(第2回)
8日(水)	大講座主任教授会	26日(水)	病院運営会議
		28日(金)	教授懇親会

### ■呼吸療法チームからRSTへの飛躍を目指して

看護部 集中ケア認定看護師 濱崎 格

平成18年1月に呼吸療法認定士を持つ看護師、理学療法士（PT）により呼吸療法チームを結成して早3年が経過し、臨床工学技士（CE）も参加しています。この資格は、3学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会）合同による呼吸療法に関する認定資格であり、それぞれの職種において呼吸療法を習熟し、呼吸管理を行う医療チームの構成要員を養成し、且つそのレベルの向上を図ることなどを目的としています。チーム結成以来、呼吸に関する勉強会や用手的呼気介助法の実技演習を2ヶ月に一度リハビリテーション室において開催し、院内の呼吸療法に関する質の向上に努めてきました。また、平成19年からは在宅療養指導料として看護師による指導に対して診療報酬がつき、在宅酸素導入に際し呼吸療法認定士として指導を行っています。近年ベッド稼働率の上昇に伴い、病棟での人工呼吸器装着も増加してきました。これらの安全管理のため、他施設ではRST（呼吸療法サポートチーム）として院内ラウンドを行い、機器の安全管理やVAP予防の呼吸管理、酸素療法の標準化、口腔ケアの質の向上などに努めています。今後は医師の参加も含めてRSTとして、チーム医療を展開していくことで、合併症を起こさないDPC時代に対応した質の高い安全な医療を提供していきたいと考えています。



### ■感染対策室からのお知らせ

#### 当院の結核対策

平成21年1月に開催された職員対象の院内感染対策研修会で、村尾仁先生による「結核 院内感染しないために」の講演がありました。研修では、結核の一般的な知識、どんな時に結核を疑うのか、入院患者が結核であった場合の対応など具体的な説明が行われました。参加した職員の反応は好評だったとのことでした。話の中でクォンティフェロン（QFT）検査の説明がありました。ご存知の方も多いと思いますが、本学では、全国に先駆けて職員や学生の結核感染防止にQFT検査を導入しています。

最近、芸能人が結核を発症し話題を呼びましたが、結核の発症は、周囲に対する影響の大きさから社会的に大きな問題となります。特に、医療従事者が発症すると職員のみならず患者様にも感染が拡大する怖れがあり、定期健診の受診は当然としても、咳や痰などの症状が長期にわたる場合、積極的に外来を受診し結核の可能性を除外してもらわなければなりません。

これまで、結核に感染したかどうかのスクリーニング検査は、ツベルクリン反応により行われてきましたが、ツ反はBCG接種の影響を受けることから特異性の点で問題があることが知られていました。QFT検査は、BCG接種の影響を全く受けませんので、結核感染の有無を精度良く判定することが出来ます。現在、結核罹患リスクの高い部署の職員から順にQFTの基礎値の検査をすすめています。研修会では、これまで得られた結果が紹介されました。また、病院で結核患者が発生した時に暴露したリスクの高い職員の検診にもこの検査が用いられています。

感染対策室室長 中川 俊正

### ■文部科学省主催の平成20年度『大学教育改革プログラム合同フォーラム』

平成21年1月12日（月・祝）・13日（火）にパシフィコ横浜で開催され『大学教育改革プログラム合同フォーラム』（文部科学省主催）のポスターセッションに参加しました。文部科学省では、全国の国公私立大学・短期大学・高等専門学校の良い教育プロジェクトを支援するプログラムを実施しています。今回の合同フォーラムは、これらの優れたプログラムが一堂に会し、今年度選ばれた取り組み紹介をはじめ、大学教育改革の現状について広く社会に情報発信を行うことを目的に毎年開催されています。



本学は20年度・大学病院連携型高度医療人養成推進事業のブースにおいて『近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム』の概要等についてポスターセッションを行なった。来場された大学関係者や医学生が興味深く内容について質疑応答があり、大変有意義なものとなりました。また、参加大学の取り組みについても大変参考になることが多く、今後の活動に活かせたいと考えています。

### ■キャリア形成支援センターのテレビ会議システムが稼働

平成20年10月からスタートした近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムは連携大学病院とのテレビ会議システムの構築、情報機器関係の整備やシミュレーター機器の導入により、後期臨床研修体制の基盤が確立できました。本年3月12日に本学、関西医科大学、近畿大学、兵庫医科大学の4大学との関係者との間で運営会議を開催しました。特に、関西医科大学とは若手医師の相互間での研修受入れについて調整を行い、本格的な活動がスタートしました。テレビ会議システムは関連大学病院との指導の先生方や事務の相互連携を図ることは勿論、医師のキャリア形成に登録された先生方にも活用いただけることにより、業務効率やスピーディーな対応が期待できます。現在テレビ会議システムは附属病院2号館6階の卒後臨床研修センター・会議室に設置していますので、関連部門の皆様方には積極的に活用をお願いします。（問合先：キャリア形成支援センター 内線3295）



### ■連携大学間において専門研修医の循環研修が開始しました

平成21年3月、本学精神神経科レジデントの久保洋一郎医師が関西医科大学滝井病院で専門研修を行いました。これは、近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムの「精神神経科専門医養成コース」に則った連携大学における専門研修であり、関西医科大学において精神科リハビリテーション、認知行動療法など社会心理学的医療を研鑽するプログラムとなっています。

一方、関西医科大学からも諏訪梓医師が本学の精神神経科において専門研修を開始しており、今後の大学連携による高度医療人としての更なる成果が期待されています。

なお、久保医師には国際学会に参加するための支援をさせていただき、大学連携における研修成果を更に実りあるものとしていただく予定です。

## 医療安全推進部関係

### ■第4回 リスクマネージャー宿泊研修開催

リスクマネジメントの意識を高め、互いの情報交換や交流を深める事を目的として、平成21年2月20日（金）、21日（土）ホテル阪急エキスポパークで宿泊研修を開催いたしました。

研修は、医療安全対策室の先生方がタスクフォースとして参加し、事例に基づき根本原因を分析する『RCA分析』によるグループ演習を中心に行いました。多職種の方々によるグループ構成で、演習を重ね分析から対策立案までを検討する中で、様々な意見交換がなされ、職種間の領域を超えたコミュニケーションが図れたとの感想が多数寄せられました。

また今回、「コンフリクトマネジメント」に関するご講演を病院医療相談部 角江課長と薬剤部 西原課長からいただき、さらに耳鼻咽喉科 萩森先生と薬剤部 西原課長からは、自部署での医療安全への取り組みについてお話していただきました。

閉会の挨拶では、花房病院長より「診療の場を離れて、多職種の方々が共通の話題で議論でき、貴重な時間を持てたのではないかと感じている。それぞれの職場での医療安全の文化に対する共通認識を広めてほしいと思う。」と述べられ研修会は終了しました。

【開催日】平成21年2月20日（金）9時30分～21日（土）12時30分

【場 所】ホテル阪急エキスポパーク

【参加者】42名：医師10名、看護師14名、  
コメディカル・その他9名、  
タスクフォース・スタッフ9名

【タスクフォース】（医療安全対策室員）

村尾 仁 先生（室長・ゼネラルリスクマネージャー）  
浮村 聡 先生（総合内科）  
寺前 純吾 先生（糖尿病代謝・内分泌内科）  
大門 雅広 先生（心臓血管外科）  
萩森 伸一 先生（耳鼻咽喉科）



## ■第20回 事例検討会

開催日：平成21年3月3日（火）・9日（月） 両日とも17：00～（但し、9日はDVD上映）

テーマ：①採血取り間違い事例 ②患者取り間違い事例

3月3日（火）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、米田医療安全推進部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。

63病棟からは、事例の紹介後、RCA分析法を用いて、対策立案の過程まで分かりやすく提示していただきました。また、中央手術部からは、手術室入室時における患者誤認の事例紹介があり、原因から対策まで動画を交え分かりやすい発表でした。

2事例とも、大きな事例にまで至らなかったものの、どの部署でも起こり得る事例であったため、アンケートでも再確認の大切さ、重要性を感じ、今後の業務に生かしたいとの意見が多数寄せられました。最後に閉会の挨拶として花房病院長より謝辞を述べられ、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者615名（初日349名、DVD上映会266名）の出席のもと、講演は盛会に終了しました。



※ 本院では、医療に係る安全管理のための職員研修は、全ての職員が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。毎回、多数の職員に参加していただき、安全に係る研修の参加意識も高まってきたように感じます。

※ 業務や時間の都合で研修会に出席できない方については、DVDでの研修で代替することを改善事例としています。DVD貸し出しや医療安全対策室隣（2号館5階）の研修室で随時DVD受講ができるようになっておりますのでご利用ください。

お問い合わせ：医療安全対策室 2号館5階 内線2990

## AED設置 附属病院関係事項

### 大学内の自動体外式除細動器（AED）設置について

現在、本学附属病院に8台、附属看護専門学校に1台、自動対外式助細動器（AED）が設置されていましたが、大学ゾーンには皆無でありました。

今般、大学ゾーンの安全対策のため、自動対外式助細動器（AED）を6箇所を設置しましたのでご報告申し上げます。

突然倒れた人に対して素速い通報・心肺蘇生法・AEDの使用は重要であり、居合わせた人のとる行動が生死を分けることが知られています。

本学でも学生、職員の皆様に心肺蘇生法とAEDについて知っていただき、実施できるようになっていただくため、「カンタン救急蘇生法・AED講習会」と題して、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施しています。さらに、第4年生のOSCEでも心肺蘇生法の実習が実施されています。大阪医科大学および大阪医科大学附属病院で働く方々を対象には、今までに合計193名の方々に受講して頂きました。ご参加いただいた皆様は大変熱心に実習をされ、心肺蘇生法の重要性を理解して頂いています。



救急医学 教授 森田 大

（設置場所）

- ・ 新講義実習棟1階ロビー内
- ・ 新講義実習棟4階学務部前
- ・ 臨床第1講堂前
- ・ 講義実習棟2階第1講義室前
- ・ 図書館前
- ・ さわらぎキャンパス体育館前

### 平成20年度下半期附属病院患者動態

#### ■平成20年度下半期病院患者動態

	H20.10	H20.11	H20.12	H21.1	H21.2	H21.3	対前年比 (%)
延入院患者数 (人)	22,395	21,407	20,734	20,315	20,722	21,995	-3.36
(1日平均患者数) (人)	722.4	713.6	668.8	655.3	740.1	709.5	-2.80
(新入院患者数) (人)	1,345	1,203	1,132	1,377	1,169	1,364	-1.72
(病床稼働率) (%)	88.2	87.3	81.9	80.3	90.6	87.0	-0.82
(平均在院日数)[全体] (人)	15.7	16.3	15.2	15.9	16.5	15.2	-2.53
延外来患者数 (人)	47,728	41,474	43,858	42,755	41,886	47,100	-3.69
(1日平均患者数) (人)	1,988.7	1,975.0	2,088.5	2,036.0	1,994.6	2,047.8	-2.13
(初診患者数) (人)	4,847	4,223	4,060	4,486	4,143	4,708	-6.19

#### ■平成20年度年間動態

	入院				外来	
	1日平均患者数	1ヶ月平均新入院患者数	病床稼働率	平均在院日数	1日平均患者数	1日平均初診患者数
20年度	717.7人	1,291人	87.5%	15.9日	2,001.0人	204.6人
増減率 (19-20)	0.38%	2.06%	1.98%	-2.52%	-1.70%	-3.42%

平成21年度 臨床研修医

〔医科〕42名 〔歯科〕3名



平成21年度 市民公開講座

■第1回

平成21年4月22日（土）14時～ 臨床第1 講堂

『くり返し確かめないと気がすまないあなたへ  
－強迫性障害について－』

講師：精神神経科 助教 西田 勇彦

『強迫性障害のお薬との上手なつきあい方』

講師：附属病院薬剤部 濱田 武



☼『看護相談会』を開催致しました。

平成21年度 市民公開講座開催予定

回	開催日	演 題	講 師	演 題	薬 剤 師
第2回	5月16日(土)	身体にやさしい大腸がん治療を求めて	一般・消化器外科 講師(准) 田中慶太郎	がんの痛みは怖くない	小林 豊英
第3回	6月20日(土)	何でも食べたい!どだい無理な(話)歯無し!? -インプラント治療について-	歯科口腔外科 教授 島原 政司	骨粗しょう症のお薬と顎骨壊死の予防	鈴木 典子
第4回	9月5日(土) (第1土曜日)	寝たきりにならないためのリハビリテーションのすすめ	リハビリテーション科 教授 佐浦 隆一	「転倒防止」 理学療法士 高山竜二	
第5回	11月7日(土) (第1土曜日)	新しい心肺蘇生を学びましょう ※実技有り	救急医療部 教授 森田 大 救急医療部医員	緊急時に使用するお薬について	山田 智之
第6回	12月19日(土)	リンパ浮腫って何?	形成外科 講師 中井 國博	リンパ浮腫治療に関連するお薬について	曾根 登子
第7回	平成22年 1月16日(土)	「治験」ってなあに?～ 「治験に参加しませんか?」と言われたら～	臨床治験センター センター長 林 哲也 センター一同	治験センター担当	

※各回において、お薬相談、看護相談を実施致します。

平成21年度 高槻市大学交流センター事業 『市民講座』開催予定

開 催 日	演 者	演 題
平成21年10月8日(木) 16:30～18:00	化学・生体分子学 教 授 古谷 榮助	『酒との付き合い方』
平成21年10月15日(木) 16:30～18:00	薬理学 教 授 朝日 通雄	『薬は体に何をします?』
平成21年10月22日(木) 16:30～18:00	法医学 教 授 鈴木 廣一	『法医学はどこまで真実を語れるか?』 —デジタル時代の法医解剖』

# 平成21年度LDセンター活動予定

## 2009年度 講習会・研修会予定表 年間のテーマ「発達障害のある中高生の理解と支援」

月	日	曜	講演内容	講師名(予定講演順)	時間
5月	29日	金	見る／聞くの理解と指導	栗本奈緒子	10:00～12:00
11月	30日	月			
6月	29日	月	読む／書く力の理解とその指導	水田めぐみ	
1月	29日	金			
4月	29日	水	幼児期の発達障害の理解と指導 クラスの中での支援の方法：環境調整のしかた	里見恵子 秋元壽江	13:30～16:45
5月	9日	土	発達障害のある人の青年期の課題と支援の実際	竹田契一 金泰子 小貴悟	10:00～16:00
5月	より3回	火	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導(5月12日・5月26日・6月9日)	西岡有香	10:00～12:00
5月	より2回	金	幼児・低学年の子どもを育てるお母さんのための子育て応援講座(5月22日・6月19日)	西岡有香	10:00～11:30
5月	23日	土	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導 基礎編 ～幼児期から学童期の視覚発達と学習との関連～	奥村智人	13:30～16:30
6月	14日	日	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導 実践編(1) ～書字につまずきのある児童への視覚に関する支援～	奥村智人	13:30～16:30
6月	23日	火	子どもの姿勢と体の動き、手の操作～作業療法の立場から～	芳本有里子	10:00～12:00
6月	27日	土	発達障害のアセスメント研修会	山田充 谷川友子 水田めぐみ	10:00～16:00
6月	28日	日	ロールプレイで学ぶ交渉術 子ども、保護者、教師との関わりかた	バーンス亀山静子	10:00～16:00
7月	11日	土	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導 実践編(2) ～不器用さのある児童・生徒への視覚に関する支援～	奥村智人 高野芳子	13:30～16:30
7月	18日	土	幼児期のことばの発達の援助 ～保育者が行う効果的なことばかけとは～	里見恵子	13:30～16:00
7月	19日	日	"読み書き障害の評価と指導法 ～ディスレクシア(読み書き障害)の理解と指導～"	若宮英司 村井敏宏 濱田滋子 山中香奈	10:00～16:45
7月	20日	月	自分らしく生きていこう ～大人になってディスレクシア(読み書き障害)と知った青年からのメッセージ～	奥村智人 南雲明彦 竹田契一	13:30～16:00
8月	1・2日	土日	14歳からの非行リスクアセスメントとその対応のあり方	向井義 細井保弘 井上慎 溝口慎二 新田拓司 竹田契一	9:30～17:30
8月	8日	土	思春期・青年期の課題 ～発達障害のある人が自立に向けて前進するために～	玉井邦夫	13:30～16:30
8月	29日	土	幼稚園・保育所における 発達障害と遅れのある子どものための行事への取り組み	里見恵子 秋元壽江 平光登志子	13:30～16:45
9月	8日	火	手の操作へのアプローチ～作業療法の立場から～	芳本有里子	10:00～12:00
10月	より3回	火	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導 (10月13日・10月27日・11月10日)	西岡有香	10:00～12:00
10月	24日	土	認知に偏りのある子どもへの算数の評価と指導法 ～課題分析から個別の課題設定へ～	山田充 今村佐智子 水田めぐみ	10:00～16:00
10月	31日	土	個別の指導計画作成研修 ～学習や行動の観察・アセスメントの情報を活かして～ ダウン症の子どもへの支援と配慮 ～中学・高校・就労に向けての心構えと援助の方法～	海津亜希子 富田淳 布留川正博	10:00～16:00 13:30～16:30
11月	1日	日	子どものうつ病とうつ状態を理解するために ～発達障害のある子どもの心の悲鳴に気づく～	岩坂英巳	13:30～16:30
11月	21日	土	保護者の気持ちによりそう連携 ～支援の対象としての保護者をサポートするために～	高山恵子	13:30～16:30
11月	22日	日	発達障害のある子の応援団としての教師の役割 ～LD教育への思い・通常学級での支援と配慮～	小林祐子 米田和子 上野一彦	10:00～16:30
11月	23日	月	読み書きの誤り分析のしかた	森田安德 西岡有香 栗本奈緒子	10:00～16:00
11月	28日	土	1事例によるアセスメントと個別の指導計画作成研修 視覚能力のアセスメントとトレーニング ワークショップ	笹廣みさき 米田和子 水田めぐみ 奥村智人 三浦朋子 中村明子	10:00～16:00 10:00～16:00
1月	9日	土	園児の個別的教育支援計画と個別の指導計画作成研修	西田和子 松尾育子 西岡有香 栗本奈緒子	10:00～16:00
1月	23日	土	発達障害のアセスメント研修会 読み書き障害事例による個別の指導計画作成	山田充 谷川友子 栗本奈緒子 村井敏宏 水田めぐみ 西岡有香	10:00～16:00 10:00～16:00
2月	より3回	火	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導 (2月9日・2月23日・3月9日)	西岡有香	10:00～12:00
2月	13日	土	視覚能力のアセスメントとトレーニング ワークショップ 中高生や青年へのコミュニケーションスキルの指導 ～何を、どのように教えるか～	奥村智人 三浦朋子 中村明子 西岡有香 米田和子	10:00～16:00 13:30～16:45
2月	27日	土	小学高学年児童の個別の指導計画作成	落合由香 西岡有香 栗本奈緒子	10:00～16:00
3月	13日	土	発達障害のある人が思春期・青年期を乗り越えるために必要なこと	竹田契一 後野文雄 高山恵子	13:30～16:45

## ■主要会議とその主な議題(平成21年2月～4月)

### [理事会]

(平成21年2月24日)

#### —審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 大阪医科大学附属病院 病院運営会議規程の一部改正について
3. 診療報酬の流動化について
4. リースバックについて
5. 看護医療学部研究室棟建築及び既存棟改修について

#### —報告事項—

1. 看護医療学部と3大学共同学部について
2. その他

(平成21年3月3日)

#### —審議事項—

1. リースバックについて
2. 看護医療学部研究室棟建築及び既存棟改修について
3. 学校法人大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座規程の制定について

(平成21年3月31日その1)

#### —審議事項—

1. 平成21年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成21年度予算について
3. 看護専門学校長の選任について
4. 評議員の選任について
5. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について
6. 基本金の取崩について

#### —報告事項—

1. 平成20年度資金収支決算見込報告書について
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. その他

(平成21年3月31日その2)

#### —審議事項—

1. 平成21年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成21年度予算について
3. 看護学部研究室棟建築及び既存棟改修について
4. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について

### [臨時理事会]

(平成21年3月18日)

#### —審議事項—

1. 診療報酬の流動化について

2. 平成20年度予備費の使用について

#### —報告事項—

1. 看護学部の設置について
2. 平成21年度予算について

### [評議員会]

(平成21年3月31日)

#### —審議事項—

1. 平成21年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成21年度予算について
3. 理事の選任について
4. 看護学部研究室棟建築及び既存棟改修について
5. 学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について

#### —報告事項—

1. 平成20年度資金収支決算見込報告書について
2. その他

### [臨時評議員会]

(平成21年2月24日)

#### —審議事項—

1. リースバックについて
2. 看護医療学部研究室棟建築及び既存棟改修について

#### —報告事項—

1. 看護医療学部設置並びに3大学共同学部設置に係る進捗状況について

(平成21年3月3日)

#### —審議事項—

1. リースバックについて
2. 看護医療学部研究室棟建築及び既存棟改修について

#### —報告事項—

1. 看護医療学部設置並びに3大学共同学部設置に係る進捗状況について

### [大講座主任教授会]

(平成21年2月12日)

#### —審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大阪医科大学専門教授規程等の一部改正について

(平成21年4月8日)

#### —審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大阪医科大学安全対策委員会規程(案)について
3. 大阪医科大学学則の一部改正(案)について

# 主要会議報告

---

## [教授会]

(平成21年2月5日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 感覚器機能形態医学講座皮膚科学教室担当教授の選考について
3. 総合診療科専門教授の選考について
4. 総合医学講座放射線医学教室治療担当専門教授の選考について
5. 大阪医科大学安全対策委員会規程(案)について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. 研究機構長報告
4. 広報・センター長報告
5. 倫理委員長報告

(平成21年2月19日)

### —審議事項—

1. 平成21年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 学長予定者選挙に関する件

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 中山国際医学医療交流センター長報告

(平成21年2月26日)臨時

### —審議事項—

1. 平成21年度入学試験に関する件
2. 化学療法センター専門教授の選考に関する件
3. 名誉教授称号授与に関する件

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 広報・入試プロジェクト委員長報告

(平成21年3月4日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 感覚器機能形態医学講座皮膚科学教室担当教授の選考について
3. 総合診療科専門教授の選考について
4. 総合医学講座放射線医学教室専門教授(放射線治療学担当)の選考について
5. 学内不正行為に対する処罰について

### —報告事項—

1. 学長報告

(平成21年3月12日)臨時

### —審議事項—

1. 平成21年度入学試験に関する件
2. 平成21年3月31日で任期満了となる教授会での選出が必要な委員会委員の選出について
3. 実験動物センター長の改選に関する件
4. 大阪医科大学大学院医学研究科における大綱改編について

### —報告事項—

1. 学長報告

(平成21年3月16日)

### —審議事項—

1. 平成21年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 化学療法センター専門教授の選考について
4. COIに関する規程類(案)の策定について
5. 前回(3月12日)投票の実験動物センター長及び各委員会委員の投票結果について
6. 医学情報処理センター長の改選について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 倫理委員長報告

(平成21年3月21日)臨時

### —審議事項—

1. 平成21年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 第1～4学年の進級合否判定について
4. 第2・4学年給付奨学生(特待生)の選考について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 中山国際医学医療交流センター長報告
3. 広報・入試センター長報告
4. ホームページ委員長報告

(平成21年4月2日)

### —審議事項—

1. 平成21年度入学者決定に関する件
2. 人事に関する件
3. COIに関する規程類(案)の策定について
4. 学部学生の退学願い出について
5. 各種委員会委員の推薦について
6. 第103回医師国家試験合格者状況について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

## 3. 病院長報告

(平成21年4月15日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合医学講座放射線医学教室専門教授(放射線治療学担当)の選考について
3. 大阪医科大学学則の一部改正(案)について
4. 大阪医科大学市民公開講座運営委員会規程の一部改正(案)について
5. 学部学生の休学願い出について
6. 動物実験委員会委員長の交代について
7. 名誉教授称号授与に関する件について
8. その他
  - 1) 現状で任期満了となっている未選任の役職及び委員会委員について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. 教育センター長報告
4. 倫理委員長報告

## [大学院医学研究科委員会]

(平成21年2月5日)

### —審議事項—

1. 平成21年度統合講義担当者斡旋依頼について

### —報告事項—

1. 平成21年度大学院入学試験志願者受付について
2. 平成20年度第Ⅲ回学位論文審査一覧について
3. 研究生または研究生(出向医)の継続手続について
4. 大学院生の3月分出張旅費(学会出席等)申請について
5. ポスドクの公募について
6. 平成20年度大学院医学研究科FDワークショップ実施報告について

(平成21年2月19日)

### —審議事項—

1. 平成21年度大学院入学試験合否判定について
2. 平成21年度大学院受験者の専門科目変更届けについて
3. 平成21年度研究生新規出願について

### —報告事項—

1. 平成20年度第Ⅲ回学位記授与式について

(平成21年3月4日)

### —審議事項—

1. 大阪大学大学院医学系研究科との特別研究生交流協定書(継続)について

### —報告事項—

1. 大学院1～3年生に関わる成績評価等の今後の日程について
2. (がんプロ)第2回医療フォーラムの開催について
3. 平成21年度大学院学事日程および統合講義・共同利用実験施設セミナー日程について

(平成21年3月16日)

### —審議事項—

1. 平成20年度第Ⅲ回学位論文審査結果に基づく可(合)否決定について
2. 平成21年度研究生及び研究生(出向医)に関する継続・辞退願について
3. 平成平成21年度学外研修許可願について
4. 外国人共同研究者の在籍期間の研究歴換算について

### —報告事項—

1. 平成20年度 第3回学位記授与式について
2. 平成21年度 大学院入学宣誓式について

(平成21年4月2日)

### —審議事項—

1. 平成21年度大学院医学研究科給付奨学金の支給について
2. 大学院生の専攻授業科目変更について
3. 大阪大学大学院医学系研究科からの大学院生研究指導依頼について

### —報告事項—

1. 平成21年度大学院「統合講義」授業開講に伴う受講配慮について
2. 平成21年度 大学院「共同利用実験施設セミナー」授業開講に伴う受講配慮について
3. 大学院個人情報統括管理者の委嘱について
4. その他
  - 1) 平成21年度大学院入学宣誓式及び健康診断について
  - 2) 平成21年度第1回学位論文申請受付及び書式変更について

(平成21年4月15日)

### —審議事項—

1. 近畿大学大学院医学系研究科からの大学院生研究指導依頼について

### —報告事項—

1. 公益信託グラクソ・スミスクライン国際奨学基金奨学生募集について

### 保健管理室からのお知らせ

#### ■ 平成20年度特定保健指導について

平成20年4月から「高齢者の医療の確保に関する法律」が施行され、40歳から75歳未満の医療保険加入者等（任意継続加入者及び被扶養者を含む）を対象に特定健康診査及び特定保健指導が義務付けられました。本学においても、日本私立学校振興・共済事業団（以下「私学事業団」）の「私立学校教職員共済特定健康診査等実施計画」に基づいて、昨年の定期職員健康診断（平成20年10月実施）に併せて1回目の特定健康診査を実施しました。

特定健康診査では、私学事業団においてメタボリックシンドローム該当者及び予備群に相当する保健指導対象者が選定され、指定保健指導機関での特定保健指導（「動機付け支援」「積極的支援」）が実施される予定でした。しかし私学事業団の諸事情（①処理システムの問題、②指定保健指導機関が少ない）により、平成20年度の特定保健指導の実施は見送られることになりました。

本学では特定健康診査対象者約630名（被扶養者は含まない）の内、特定保健指導対象者は約90名でした。対象者には保健管理室より文書でご連絡しますので、再度ご自分の健診結果をご覧になり、健診結果の悪かった項目が良くなるよう、生活習慣を改善して下さい。また特定健康診査や保健指導の対象でなかった方も、健診での所見の有無に関係なく健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

★保健管理室の掲示板（総合研究棟2階）などに健康情報を掲示しています。

また西泉のご協力で職員食堂、看護食堂の主要なメニューに「食事バランス」を掲示しています（右図）。

日頃の食生活など生活習慣を見直す契機にして下さい。

★保健管理室では保健師が健康相談を行っていますので、気軽にご利用下さい。

また各種リーフレット、体組成計、血圧計などもありますのでご利用下さい。



#### ■ こころの元気！！ ～一人で抱え込まないで、早めに相談しましょう～

新年度に入り、異動、入職、入学など環境が大きく変わる時期です。新しい環境、生活に慣れるためにストレスが高まりやすく、疲れがとれない、気持ちが落ち込みやすい・・・など心身ともに疲労状態となります。この状態が続くと、中にはうつ病など心の病気に陥ってしまうこともあります。しかし悩みや心身の不調があっても、身近な人・職場の人には話にくい、専門家に相談するのもためられると一人で抱え込んでしまう場合も少なくありません。身体疾患と同様にこころの不調も早めの対処が重要ですので、“しんどいな”と感じたら上司や先輩、友達に相談してみてください。また本学の保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っていますので、気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

#### 【利用方法】

- ① 保健管理室（研究棟1階）に直接来室して下さい。あらかじめ日時を予約をすることもできます。
- ② 電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。

③ 受付時間：月～金曜日 9：00～17：00（予約有の場合、17：00以降でも可）

④ 問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話） E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp

### ■ B型肝炎ワクチン接種のご案内

1回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種、及び2回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種者の抗体確認検査を下記のように実施します。

#### 1回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種

【実施日時】平成21年6月3日（水）、4日（木） 15：30～16：30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申込された方（但し昨年度3回のワクチン接種を受けられた方は対象外）となります。

#### 2回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種者の抗体確認検査

【実施日時】平成21年7月1日（水）、2日（木） 15：30～16：30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】6月に1回目B型ワクチン接種・追加ワクチン接種を受けた方

平成21年度B型肝炎ワクチン接種スケジュール

		6/3（水） 6/4（木）	7/1（水） 7/2（木）	12/2（水） 12/3（木）	平成22年 1/20（水） 1/21（木）
時 間、場 所		保健管理室15：30～16：30			15：00～16：00
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	1回目 ワクチン接種	2回目 ワクチン接種	3回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を 獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査	/	/

### ■ 特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診のご案内

平成21年度特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を実施します。

対象者には事前に健診案内を配布しますので、日時などを確認の上、必ず受検して下さい。

【実施日時】平成21年5月20日（水）～22日（金） 9：00～15：30

【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

### ■ 長時間労働者健診のご案内

平成21年度春季 長時間労働者健診を実施します。

【対 象 者】平成20年9月～平成21年3月の間、月45時間以上の時間外・休日勤務をし、産業医が必要と認めた職員

【実施日時】平成21年5月20日（水）～22日（金） 9：00～15：30

【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

## 歴史資料館関係

### ■大阪ミュージアムの「登録物」に認定

大阪医科大学歴史資料館が、高槻市の推薦を得て、大阪府の推進する構想である大阪ミュージアムの「登録物」として平成21年1月27日に認定されました。

大阪ミュージアムHP

<http://www.osaka-museum.jp/index.php>



### ■歴史資料館市民講座

第2回 歴史資料館市民講座が、下記の通り開催されました。

日 時：平成21年3月7日（土）14：00～15：20

場 所：別館3階 講義室

演 題：整形外科の歴史と健康を支える「運動器の10年世界運動」

講 師：整形外科学 教授 木下 光雄

参加者：約60名



### 【歴史資料館展示資料恵与者】

平成20年10月1日から平成21年3月31日までに1名の方（別表）よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

（敬称略）

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H21.2.21	森田 大	聴診器	医学部 昭和47年卒
H21.3.2	森田 大	絵皿（旧本館）、 大阪医科大学校歌（ソノシート付）	医学部 昭和47年卒



### ● 健康科学クリニック開設記念「特別市民講演会」を開催して ●

去る2月28日（土）に、本年6月から開始します大阪医科大学健康科学クリニックの開設を記念し、高槻現代劇場大ホールで「特別市民講演会」を開催しました。当日は爽やかに晴れ上がり、陽だまりの暖かさも感じられる好天に恵まれ、またお二人の講師もメディアに度々ご登場になる先生をお招きしたこともあり、1,400人近い市民の方にお越し願ひ、2階席も詰まるほどの盛況でした。ご来場の皆様方も2時間半にわたる講演会を最後まで真摯にご静聴いただき、改めて市民の「健康への関心の高さ」を感じました。

講演会は、まず理事長の挨拶で始まり、多くの市民の方々がご臨席を賜ったことへの謝意、そして本学の健康科学クリニック開設の意義や背景をお話ししました。続いて、心臓血管研究所スーパーバイザーの須磨善久先生に「高齢化社会と心臓病」と題してご講演をいただきました。須磨先生は医療ドラマ「医龍」や「チームバチスタの栄光」の医事監修などで幅広い活躍をされています。当日も天才心臓外科医として、先生のバチスタ手術風景が大画面に映し出されると、観客の皆様もその画像を真剣に見入っておられました。お二人目の講師として、日本医科大学呼吸器内科教授・呼吸ケアクリニック所長の木田厚端先生が「21世紀の健康と長寿の秘訣 注目される生活習慣病：その予防と対策」という題目でご講演を願いました。木田先生は健康に関するテレビ・ラジオ番組にも多数出演されており、また岩波新書の「肺の話」、中公新書の「肺の生活習慣病（COPD）」など著名な著書も数多く出版されています。喫煙がもたらす体への害は、皆様身につまされたようでした。最後に、学長が皆様方に感謝の気持ちを込めて挨拶し、講演会はつつがなく幕を閉めました。お越しいただいた方も満足してお帰りになったと思います。



須磨善久先生



木田厚端先生

総合企画部長 磯田洋三



## 俳句

### ◆大阪医科大学俳句会（二・三・四月）

麗かや船長銅鑼打つ無人港

山崎隆司

幼稚園のマラソン東風を追風に

同

月冴ゆる師の短冊を探しをり

今井雄介

白木蓮に雨降つてゐる茶室かな

同

大寒の研屋鍛冶屋や隣り合ひ

中川一成

京で売る丹後の魚や花曇

同

銅鑼は二打遊船出航春の川

吉田孝江

鮎子の入荷の列に加はりぬ

同

冬木の芽補習教室昼灯し

飯塚久子

竹林の風のまろみや木の芽和

同

転校生泣かされてゐるさくらかな

美濃 眞

みな留守の古い時計の鳴る四温

同

残る鴨外輪船に驚かず

宮脇芳美

いぬふぐり遊ぶ約束すぐ決まり

同

### 投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下さい。当句会で会員の  
出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7  
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

表紙絵：『カワヤナギ』（ネコヤナギ、エノコロヤナギ）

名の如く、日本各地の川辺に生える。庭木としても栽培され、生け花によく使われる。3月～4月、春の到来を感じ、花々が咲き始めるころ、葉が  
でるより先に、光沢のある銀ねずみ色の毛を密生させた花穂が猫の尾、子猫を想像させることから、季語となる山野草の中に「猫柳」とある。刈っ  
ても、刈っても芽を吹くことから、絶ち切れぬ恋心にたとえた歌も詠まれている。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

### 個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。  
これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人  
情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。  
なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用す  
ることはありません。  
学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたし  
ます。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代  
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第80号

発行年月 平成21年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>